

墾地近傍窮民處置ノ事ハ開墾規則第二條ニ明文アレハ此條ニ依テ處置ヲ受クヘキモノニテ固ヨリ入費ノ實際ヲ審理スルヲ要セサレハナリ故ニ東京上等裁判所ニ於テ已ニ近傍窮民ノ部分タルヲ知レル上ハ賃錢ノ少キト勞力ヲ用井シトハ素ヨリ得心ノ上取掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スル筋無之ト判決セシモノナレハ條理ニ適シタル裁判ナリトス

第四條

上告狀第四條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判文ヲ誤解セシモノトス何トナレハ判文第二條中ニ原告人於テ賃錢ヲ受取タル以上ハ決シテ自費開墾者ニアラス其自ラ言フ處ノ往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシトハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアルハ原告カ自費開墾者ナリトノ申立ニ對シ自費開墾者ナレハ賃錢

ヲ受取ルヘキ理由ナシ既ニ賃錢ヲ受取タル上ハ自費開墾者ニアラズ又自費開墾者ナレハ初ヨリ地主タルノ權ヲ有スルモノナレハ往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシト言フヘキ理由ナシ既ニ往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシト言フ上ハ是亦自費開墾者ナリトノ申立ニ適當セス畢竟原告ニ於テ賃錢ヲ受取リタリト云ヒ又往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシト云ハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトノ意ニテ原告ハ規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラスト判決セシニアラサルノミナラス即テ規則第二條ニ依ルヘキ申立ナリト判決セシナリ故ニ自己ノ誤解ヲ以テ此裁判ヲ不法トスルヲ得ズ

第五條

上告狀第五條ノ申立ニ付東京上等裁判所ノ判決第三條中ニ所有主ノ官私ニ拘ラス被告ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然云々ト

アルヲ審按スルニ此判文ハ原告ニ於テ小作金ヲ納ルヲ拒メルハ元官有地ト心得小作セシニ圖ラズモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ付其原因ヲ知ラサレハ納メ難シトノ申立ニ對スルモノニテ小作金ヲ納メルノ義務ハ所有主ノ官私ニ因テ之ヲ納ムルト納メサルトノ區別ヲ生スルモノニアラス故ニ原告ニ於テ小作人タルト私ラントテ願出小作証書ヲ差入タル上ハ該地ノ官有タルト私有タルトニ論ナク其小作人タルコトハ明白ナリ已ニ小作人ズレハ其小作証書ノ名宛人即チ被告人ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ意ナリトス然ルニ原告ニ於テハ官有私有ノ別ヲ明カニシテ而シテ後土地ヲ引渡スヘキ理由アラハ其時被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリト云フト雖モ該地ノ官有タル手私有タル手ハ原告ニ於テ論スヘキ事ニアラス何トナレハ原告ハ初メヨリ小作証書ヲ被告ヘ

差入被告ノ支配ヲ受ケ來ルモノナレハ其小作人タルノ契約ヲ履行スヘキモノナレハナリ然ルニ其契約ニ背キテ小作金ヲ差出ストテ拒ムニ依リ小作地引揚ヲ訴ヘラレタルモノナレハ原告カ所謂地所ヲ引渡スヘキ理由ハ判然著明ナリトス故ニ東京上等裁判所ニ於テ其所有主ノ官私ニ拘ラス被告ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スニキハ當然ナルニ之ヲ差拒メルヨリシテ地所ヲ引揚ストスルハ証書上ニ對シ不當トスヘカラスト判決シタルハ適當ノ裁判ナリトス

第六條

上告狀第六條ノ申立ヲ審理スルニ被告ニ於テ地所ヲ引揚ストスルハ原告カ小作証書ヲ差入ナカラ小作人タルノ義務ヲ盡サハルニ出テ其事理ノ明瞭ニシテ東京上等裁判所ノ判決ノ不法ニアラサルコトハ已ニ第五條ニ辨明シ如シ然ルニ原告ハ控訴狀第十三條及ヒ第

十五條ノ末文ニ於テ却テ被告ハ地所ヲ得タル確証ヲ知リ得ズヨリ
 求メタルノミナラズ控訴狀第一條同第三條同第十五條同第十六條
 ニ於テハ該地處分上ノ事ニ論及セリ抑原告ハ初ヨリ被告ヘ小作証
 書ヲ差入小作人トナリタルモノナレハ小作人ニシテ地主カ地所ヲ
 得タル理由ヲ知リ得ント求ムヘキ權利アルコトナシ且該地ヲ會社ヘ
 附與セラレタルハ官廳ノ處分ニ係ルモノナレハ民立會社ノ社員ナ
 ル被告ニ於テハ官廳ノ處分ニ付其處分ノ理由ヲ説明スルノ責任ナ
 キモノトス故ニ東京上等裁判所ハ判文第三條ノ結尾ニ於テ該地ヲ
 會社ヘ附與セラレシコトハ固ヨリ官廳ノ處分ニ關スルコトニテ其當否
 ナ被告ヘ對シ申立ヘキ筋ニアラスト判決セシモノニシテ不法ノ裁
 判ニアラストス

第七條

主告狀第七條第八條ハ東京上等裁判所ノ裁判ニ對スル申立ニテ
 申立候以テ大審院ニ於テ辨明ヲ與フルノ限ニ在リ

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ大審院ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀
 スヘキ理由ナキニ因テ上告狀却下テ發着者也

第七拾六號

○窮民授産開墾地爭論ニ存主告狀判文明治九年八月廿八日上
 告明治十一年五月廿七

日中

原告

手葉縣下下總國葛飾郡

十餘二村平民饗庭李之

助外六人代人

東京府第三區龜

小區出雲町三番地平

並民六八八

善五郎

京都府下上京第廿七區

油小路通二條下ル二條

油小路町三番地平

民三井八郎右衛門代人

千葉縣下下総國葛飾

市岡晋一郎

千葉裁判所ノ審判

三井組代理市岡晋一郎ヨリ來襲庭空之助外七名ノ係ル小作金催促地

所引上ケ之訴訟遂吟味處原告人於テ元來開墾地ノ儀ハ去ル明治三
 巳年六月中當時東京府下ニ浪落セル無籍無産ノ窮民ヲ移シ專ラ就
 産ヲ途ヲ得セシメシガ爲メ會社設立相成ル御旨趣ニ從ヒ富民ノ者
 篤ニ御旨ヲ奉シ同志協力結社セル迄ハ被告ノ如キ有籍有産者
 ノ救助ヲ專ラシニス可キ儀ニ非ラズ然ルニ土地ニ至リテハ初ヨリ會
 社ニ附與セラレシ事開墾規則上自ラ其趣意含蓄セリ殊ニ同三午年
 十月中窮民引受數ニ應シ社中各持地ヲ定メ更ニ區分相立候ニ付即
 今被告ハ小作セシメ置ク地ハ三井組所有ト相成リ已ニ同五申年中
 小作人取扱規則ニ從ヒ小作証書ヲ取置タル處約ニ違ヒ小作金淹滯
 ノミテラヌ開墾規則第二條ニ依テ土地買取ル可キ權利ア既旨ヲ以
 テ同六年十二月中訴訟ヲ起シ其後願意不相立ヲ悟リ一旦解訟ニ及
 ヒナガラ尙依然トシテ小作人ノ義務ヲ盡サ、ルニ付証書約定ニ基

キ小作金ハ勿論地所ヲ引上度旨申立タリ
 被告ニ於テハ明治三巳年六月頒布相成ル開墾規則第一卷第三條ニ
 基キ明治三午年閏十月ヨリ同四年五月中マテ會社ハ願出許可
 ナ得テ貳町七反五畝歩ノ地ヲ開墾シ明治五年十一月ニ至リ小作
 証書差入以來該地ハ官有ニシテ會社ハ則チ官設ト心得約定通小作
 稅上納シ來ルル處其後原告擅ニ私有地ノ趣申聞ニ付爾後納稅差
 拒ミ然以抑該地開墾ノ旨趣尙ルキ專ラ第民授産ノ恩典ニ出テタル
 モノナレハ富民ノ者ニ土地可賜謂以無之故開墾局ニ差出シタル
 願書申或ハ小作証書等ハ私有地ノ文体ハ有之キモ會社社員亦地主
 ト看認メタルニ非ス全ク一時ノ誤謬ニ付明治六年十二月廿日當裁判
 所今右地所買取増賃銀請取シ儀出訴致シ候處願意不條理ト相心得
 一旦訴狀願下ケ候得共尙熟ラ勘考スルニ右願下ケ致候モ矢張り誤

解ヨリ生シタル儀ニテ固ヨリ社員ハ該局ノ吏員ニシテ地所ハ官有
 地ト心得シニ付小作金ハ直ニ官介上稅可致筋ナラハ故ニ原告ハ對
 東京納稅局勿論地所引渡シ候儀難相成旨申立タリ
 因送左ニ通判決ス

被告於テ最初開墾局ニ差出シタル願書及小作証書ハ私有地ノ
 文体ニ認メタル所アルモ右ハ當時ノ誤寫ニシテ元來官有地ト心得
 シマ以テ明治六年十二月地所買取云々ノ儀當裁判所へ出訴致シ其
 節一且非理ナルチ自認シ訴狀願下ケ致セシ處猶之チ願出ノ右願下
 ケセシモ亦誤謬ニ出タル旨今更申立ルル雖モ開墾規則及小作取
 扱規則チ參照シ又其土地チ管轄スル千葉縣廳ノ証明スル處ニ據レ
 該地ハ會社へ附與セラレシモノニテ全ク原告ノ私有地ト可相心

得事此... 第三條... 小作人取扱規則... 被告... 會社... 加込致... 筋... 無之固... 社外... 小作人... 其義務... 尽... 迄... 以... 窮民授産處分... 上ノ事... 付可否... 論議... 關係無之事... 前二條... 通... 付被告... 於... 証書... 而約定... 義務... 次... 生... 原告... ノ督促... 抗拒... 可キ權利... 無之間... 小作金... 勿論地所速ニ原告へ可引

因渡事 明治八年十月廿四日

東京高等裁判所... 審判... 被告... 原告... 三月二日... 十三日

明治三年六月... 窮民授産ノ爲メ下総國小金佐倉牧々開墾被仰出... 以自分共ハ右開墾地近傍窮民... 第二條ニ依リ開墾志願ノ旨明治三年閏十月ヨリ同四年未年三月中迄ニ舊開墾會社へ出願シ小金原守高田臺牧下稱スル荒野貳町七反五畝歩表引受開墾シ明治五年申年四月ヨリ四月迄ニ開墾規則第二條ニ基キ壹反當付金壹圓五拾錢... 五年未三月中小作証文差入耕地壹反... 付貳拾五錢ノ上稅可致旨開墾會社ヨリ申渡サレ其際舊葛飾縣勸農掛楠木平馬ヨリ右小作証文名宛ハ三井組開墾掛中ト可相認旨廻狀ヲ以テ順達セシニ付乃チ承諾シ小作証文差入納稅致シ來ル處三井八郎右衛門ヨリ右地所ノ地券御下ケ願メナシ然ル處三井組ニ於テ小作証文ヲ以テ私有地ニ証憑トシ加村區裁判所へ出訴シ未キ業

裁判所差廻並同裁判所為於三并組私存地至付小借金未償却
 地所引渡大銀シ下ノ裁判所受與有裁判所不服申付別紙第拾號
 第拾五號送交書類並證據下次控訴不承王左久知存濟開
 三證據書類目錄
 第一號申訴書
 第二號申訴書
 第三號申訴書
 第四號申訴書
 第五號申訴書
 第六號申訴書
 第七號申訴書
 第八號申訴書
 第九號申訴書
 第十號申訴書
 第十一號申訴書
 第十二號申訴書
 第十三號申訴書
 第十四號申訴書
 第十五號申訴書
 第十六號申訴書
 第十七號申訴書
 第十八號申訴書
 第十九號申訴書
 第二十號申訴書
 第二十一號申訴書
 第二十二號申訴書
 第二十三號申訴書
 第二十四號申訴書
 第二十五號申訴書
 第二十六號申訴書
 第二十七號申訴書
 第二十八號申訴書
 第二十九號申訴書
 第三十號申訴書
 第三十一號申訴書
 第三十二號申訴書
 第三十三號申訴書
 第三十四號申訴書
 第三十五號申訴書
 第三十六號申訴書
 第三十七號申訴書
 第三十八號申訴書
 第三十九號申訴書
 第四十號申訴書
 第四十一號申訴書
 第四十二號申訴書
 第四十三號申訴書
 第四十四號申訴書
 第四十五號申訴書
 第四十六號申訴書
 第四十七號申訴書
 第四十八號申訴書
 第四十九號申訴書
 第五十號申訴書
 第五十一號申訴書
 第五十二號申訴書
 第五十三號申訴書
 第五十四號申訴書
 第五十五號申訴書
 第五十六號申訴書
 第五十七號申訴書
 第五十八號申訴書
 第五十九號申訴書
 第六十號申訴書
 第六十一號申訴書
 第六十二號申訴書
 第六十三號申訴書
 第六十四號申訴書
 第六十五號申訴書
 第六十六號申訴書
 第六十七號申訴書
 第六十八號申訴書
 第六十九號申訴書
 第七十號申訴書
 第七十一號申訴書
 第七十二號申訴書
 第七十三號申訴書
 第七十四號申訴書
 第七十五號申訴書
 第七十六號申訴書
 第七十七號申訴書
 第七十八號申訴書
 第七十九號申訴書
 第八十號申訴書
 第八十一號申訴書
 第八十二號申訴書
 第八十三號申訴書
 第八十四號申訴書
 第八十五號申訴書
 第八十六號申訴書
 第八十七號申訴書
 第八十八號申訴書
 第八十九號申訴書
 第九十號申訴書
 第九十一號申訴書
 第九十二號申訴書
 第九十三號申訴書
 第九十四號申訴書
 第九十五號申訴書
 第九十六號申訴書
 第九十七號申訴書
 第九十八號申訴書
 第九十九號申訴書
 第一百號申訴書

御趣意ヲ拜承致シ願入或ハ有志之輩會社之者ニ内談等有之候節ハ
 其旨委細書取取以當局ニ回届出普萬ニ必御達致私ニ願書預知又
 ハ如何敷稅并歸籍金銀ヲ繳取云云同第拾條會社役人撰舉ノ事
 云及役儀前中府等ニ附云云會社一般決議事可申立專斷アリ此數
 條ニ據ル會社ノ官立タルハ勿論其社員ハ開墾局ノ命令ヲ受ケ窮
 民投産並シ職務ニ從事致迄シ者ニテ一人一己ノ私意ヲ行フヘキ
 者ニテテ申シ其社員ニ被告ニ非テ御右衛門ニ於テ其地均私有
 法ニテ權利ヲ第拾五號申訴書ニ載ルハ御趣意ニ依テハ會社ノ職
 第三條ニテハ申訴書ニ載ルハ御趣意ニ依テハ會社ノ職
 開墾規則第三條ニテハ申訴書ニ載ルハ御趣意ニ依テハ會社ノ職
 町步之地ニ窮民ニ以テ受法ヲ社中申借金受納取以テ一分ノ入費
 下遣シ法會社在御談可致云云御趣意ニ依テハ會社ノ職

本諸小被告太郎右衛門ノ如キ開墾規則前文ニ依リ會社ニ結託
 該社員ト別異ナルトハ第三條中ニ會社ニ引致トイハレテ以テ
 判然ト別故ニ本郎右衛門ヲ窮民ヲ引受ケルハ開墾規則第三條
 ニ據ルヘキモノニアラサルヘシ然レトモ窮民ヲ引受ケタルヲ以テ
 規則第三條ニ照シ三町歩ノ地ヲ所有スルモノトセハ自分ノ如キ規
 則第三條ニ依リタル者ヲ除キテ他ニ於テ所有スルハ格別規則第
 三條ニ趣旨ヲ妨クヘキ條理アリヘシ一人一町歩ヲ引受ケテハ
 規則第三條ニ依リタル者ニ限リテハ開墾規則第六條中ニ成功之入費中ニ牧
 畜開墾ノ利益以テ補フニ規定スルハ又同規則第四條ニ縱令ハ地
 主トシテ拾坪ヲ開墾者ト外ニ
 壹坪半ノ地ヲ開キ會社ニ差出スル云々窮民授産ヲ世傳肥致候
 者亦寸地モ無之儀ニ付右地所相當ノ割ヲ以テ相渡仕其身立著
 法

相立可申事トアリ此二條ニ照合スルニ開墾ノ利益ヲ以テ入費ヲ補フ
 三足ラザルニ依リ拾坪ヲ開ク者ハ壹坪半ヲ會社ニ差出スベシト
 ルガ凡利ヲ得ル者ハ元ハキコト能ハバ即チ拾坪ハ元ニシテ壹坪
 半ハ利ナリ然レニ元利ヲ併セテ會社ノ所有ナクハ開墾規則
 前文ニ銘々己ノ利欲ニ走り云々窮民授産ヲ御成業ヲ害フ間敷ト
 アリ趣旨ニ抵觸スルヲ以テ被告太郎右衛門於テ開墾地ニ引
 揚ントスルハ私欲ノ所業ナリ

規則第四條ニ照シ開墾ノ利益ヲ以テ入費ヲ補フ
 千葉裁判所判決第二條中ニ小作人取扱規則ニ據リ地ノ主トシテ之ヲ
 政府ヲ小作人取扱規則トスレバ其地モ亦政府ノ地ニシテ平民ハ
 郎右衛門ノ小作人取扱規則トスレバ同裁判所判決第一條中ニ開
 墾規則ニ參照シ地ノ主トシテ政府ヲ小作人取扱規則トスレバ其地
 亦政府ノ地ニシテ平民ハ

人取扱規則同一地所ノ上ニ並行シテモ管理セシ在領ノ所有權門ノ
地ニ政府ノ規則ヲ施行シラントスル歟又ハ八郎右衛門ノ規則中政府
ノ規則ヲ參互シテ而シテ其地ハ八郎右衛門ノ地ト見認セズル歟
官民混淆事理明了ナラズ因テ小作人取扱規則ニ成リ立テ及ビ開墾
地ニ付テハ權限ヲ審理アランコトヲ乞フ

第五條

千葉裁判所判決第一條中ニ開墾規則及ビ小作人取扱規則ニ參照シ
テ原告ノ私有地中相心得事トシテ開墾規則第何條ニ據ル
ルノ記載ナク又小作人取扱規則中政府ヨリ施行セラルル規則中
ルヤ八郎右衛門ノ設立シタル規則中其判決明カクテスル雖モ
抑此開墾ノ窮民授産ヲ爲シ政府特別ノ恩典ヲ出テ茲ルコトニ開墾
規則第二條ニ依リ賃銀飯米家作ノ御手當ヲ蒙リ受作人ト爲ル自力

出来次第右地所買取地主トナルヘキ方法ナリ此ノ如ク政府ノ開墾
局ニハ政府ノ規則ヲ以テ政府ヨリ御手當ヲ被下受作人トナリ又其
地ヲ買取ル下ニ得ル旨政府ヨリ普ク人民ニ示サシメル上ハ斷然政
府ノ地所ヲ謂ハサルヲ得ヌ假リニ之ヲ八郎右衛門ノ私有地ト看做
スルハ所存衛門ノ私有地ヘ政府ヨリ開墾局并ニ規則ヲ立テラレ其
規則普ク人民ニ示サシメテ又政府ニ於テ八郎右衛門ノ事
務ヲ行ハルヘキ理ヲ然ルニ詞訟ノ末然然顯シラレ小作人取扱
規則中窮民授産ノ方法ヲ害スル事付テハ當該施行セズルニ悉ク
窮民授産ノ廉ハ取消シ相成クル歟小作人取扱規則中窮民授産
住無産ノ事ナルヘキ下ニ執行セラルル事モ人歟前後ノ規則區別相違
様審判ヲ乞フ下ニ乞フ

第六條

小作人取扱規則第六條ニ依リ八郎右衛門ノ規則ニ參照シ

小作証文中ニ實所様御持ト記シタルハ八郎右衛門ニ對スル語ニ似
 タレドモ御持トハ御持場御持主ノ二様ニ涉ル字ニテ御持主ナレハ
 八郎右衛門ヲ指シタル御持場御持主ノ其職務ヲ指シタルニ
 相當ノ判然ナラズ又同証文中ニ三井組開墾掛中ト記シタルハ政府
 ノ開墾會社ノ事務ヲ預ルタル社員ヲ指シタルニ當レドモ若シ是ヲ
 八郎右衛門ノ開墾掛トシタルハ開墾ノ事業ハ政府ヨリ窮民授
 産ノ爲メニセラルル開墾ナル歟三井組ノ開墾ナル歟其原由ヲ審理
 アラシムルハ宜シクハ開墾ノ事務ハ開墾會社ニ屬スル事ニ非ズ
 第七條ニ於テハ開墾會社ノ事務ハ開墾會社ニ屬スル事ニ非ズ
 小作証文中ニ地稅ト記シ御上納證記ハ御役所ト記シタルハ則官立
 對スル語ナリ左列ノ如ク此三語ヲ以テ亦併証交ハ其職務ニ對シ差入
 レタルト判然ナラズ既ニ八郎右衛門ハ會社ノ役員ナルヲ以テ上納證

勿論都テ違背ハ仕難キト記シタルナリ然ルニ八郎右衛門ハ其職務
 上ニテ受ケタル小作証文ヲ以テ私有益証ナルハ平民ノ内八郎右
 衛門ニ限リ地稅御上納御役所ノ名稱ヲ許サレタル者歟若シ許サレ
 タルモノト爲ル其許サレタル御役所ノ承認セシメテ差出シタル小作証
 文ハ其承知セサル廉チ以テ取消等トシテ御役所ノ承認一筋ニ違
 第八條ニ於テハ開墾會社ノ事務ハ開墾會社ニ屬スル事ニ非ズ
 小作証文中ニ御會社ノ御規則ト記シタルハ政府ノ恩典ニ由リテ
 窮民授産開墾規則前文ニ志願ノ者ニ會社ヲ爲結成スル旨ヲ指シ
 タルモノナリ若シ茲ニ八郎右衛門ノ開墾地トシ八郎右衛門ノ規則
 アリトスルハ政府ノ開墾地ノ幾部分ヲ何年月日ニ八郎右衛門ニ分
 割セラルル歟若又開墾ノ事業ハ最初御役所八郎右衛門ニ如ク開墾
 會社役員ノ事業法ニテモ以歟然レバ亦開墾地ハ政府ノ

局設發政府送窮民ノ平民ヲ開墾地ニ於テ授産法ニ規則ヲ施行セ
 ンルニテ其ノ敷基開墾其規則ニ於テ其根源ヲ審理シテ其ノ旨ヲ
 示スル第九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第十條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第十一條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第十二條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第十三條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第十四條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第十五條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第十六條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第十七條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第十八條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第十九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第二十條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第二十一條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第二十二條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第二十三條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第二十四條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第二十五條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第二十六條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第二十七條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第二十八條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第二十九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第三十條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第三十一條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第三十二條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第三十三條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第三十四條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第三十五條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第三十六條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第三十七條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第三十八條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第三十九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第四十條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第四十一條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第四十二條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第四十三條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第四十四條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第四十五條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第四十六條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第四十七條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第四十八條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第四十九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第五十條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第五十一條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第五十二條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第五十三條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第五十四條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第五十五條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第五十六條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第五十七條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第五十八條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第五十九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第六十條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第六十一條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第六十二條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第六十三條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第六十四條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第六十五條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第六十六條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第六十七條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第六十八條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第六十九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第七十條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第七十一條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第七十二條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第七十三條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第七十四條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第七十五條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第七十六條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第七十七條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第七十八條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第七十九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第八十條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第八十一條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第八十二條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第八十三條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第八十四條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第八十五條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第八十六條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第八十七條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第八十八條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第八十九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第九十條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第九十一條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第九十二條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第九十三條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第九十四條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第九十五條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第九十六條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第九十七條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第九十八條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル第九十九條ニ依リテ其ノ旨ヲ示スル第一百條ニ依リテ其ノ旨ヲ
 示スル

京ノ窮民モ近在ノ窮民モ窮民タルノ別ナカルヘシ然ルニ東京ノ窮
 民ノニ金穀其他ノ御貸渡ヲ被下切ニ相成近在ノ窮民ハ御下渡ノ賃
 銀被下切ニ相成ラス均シク政府ノ恩典ニシテ二途ニ處分セラルヘ
 キ筈ナキハ勿論ナレハ八郎右衛門其他ノ社員カ方法ヲ曲ケ事務ヲ
 取扱ヒタルヲ判然タリ故ニ其不當ヲ審理セラルンコトヲ乞フ

第十條 前條ノ口供ニ依レハ八郎右衛門ニ於テハ東京窮民ノ外開墾ニ著手
 セシ窮民ハ開墾規則第三條ノ部内ニ非サル者トナル歟若シ然ルト
 キハ開墾規則第三條ハ有名無實ト看做シタル歟已ニ窮民授産ノ規
 則アリ其規則ニ適當シタル窮民ニシテ現ニ其規則ノ事業ヲ踐行シ
 タルニ却テ規則ニ適當セサルモノトスルハ不當ナルヲ以テ其不當
 ノ廉ヲ審理アラシムコトヲ乞フ

第十一條

近在窮民ハ開墾規則第三條ノ通貨銀飯米家作ノ御手當ヲ蒙リ一旦受作人トナリ自力出來次第御拂下願ヲ經テ地主トナリタキ志願ニテ開墾ニ著手セシ處御手當等ハ下渡ナキヲ以テ據テ本村ノ財産ヲ賣却シ又ハ他借ナシ壹反ニ付金七圓五拾錢位モ相掛ケ又ハ其金額ニ應シタル筋力ヲ盡シ開墾セシニ成功ノ後ニ至リ壹反ニ付賃銀金壹圓五拾錢宛下渡相成タレトモ未タ飯米家作ノ御手當ヲ受ケサルノミナラス開墾入費モ十分ノ二ニ當ル金額壹反ニ付壹圓五拾錢ヲ下渡アリタレトモ十分ノ八ハ窮民ノ出セシ資本ナルヲ以テ其實況ヲ審理アラントキ乞フ

第十二條

千葉裁判所ニ於テ被告ノ申立ニハ東京ノ窮民二千五百戸九千餘人

ニテ開墾其他ノ失費高凡七拾萬圓餘ニ至レリト因テ葛飾郡豊四季村字南組ト稱フル四十戸ノ者ノ救助ヲ蒙リタル金額ヲ計算スルニ平均壹戸ニ付金三拾圓未滿ナリ試ニ此割合ヲ以テ東京ノ窮民貳千五百戸ニ算當スルニ七萬五千圓ニ上ラスタトヒ其他ノ入費ヲ格外ニ見込タリトモ御貸下金貳拾萬圓ノ高ヲ越ユヘキ筈ナシ然ルニ七拾萬圓餘ノ申立ハ不相當ニシテ信シ難シ況ヤ御貸下金ト通算スレハ百萬圓余ナルヲヤ果シテ實ナルモ冗費此ノ如クナルハ開墾規則前文中銘々一己ノ利欲ニ走ラス窮民授産ノ道相立候様注意可仕トアル旨ニ對シ不條理ナルニ依リ實地精算ノ審理アラントキ乞フ

第十三條

千葉裁判所ノ判決第一條中ニ其土地ヲ管轄スル千葉縣廳ノ証明スル所ニ據レハ該地ハ會社ニ附與セラレタルモノニテ全ク八郎右衛

門ノ私有地上可相心得トアレトモ千葉縣廳ノ証明スルトノミニテ
何年何月何ノ御役所ヨリ何等ノ達書アリ何等ノ証ニ據リ八郎右衛
門ノ私有地トナリタルトノ證據ヲ示シ窮民ノ承知ヲ經タルニアラ
サレハ千葉縣廳ノ証明ハ無証ノ口實ヲ是トセラレシモノナルヤヲ
保シ難キニ依リ不明ノ判決ナリト思考ス

第十四條

千葉裁判所ノ判文第三條中ニ被告ハ會社ニ加入致シタル筋ニ無之
固ヨリ社外ノ小作人ニシテ其義務ヲ盡ス迄ノモノトアリ其社外々
ルハ勿論ナレトモ開墾規則第二條ニ開墾加入願出候者所置ノ事ト
アル廉ニ依リ開墾ニ加入セシモノナレハ其義務ヲ盡スニ至テハ政
府ニ對シテハ盡スヘキノ義務アレトモ八郎右衛門ニ盡スヘキノ義
務ナシ故ニ權限上不備ノ判決ナリト思考ス

第十五條

千葉裁判所ノ判決第二條中ニ窮民授産處分上ノ事ニ付可否ノ論議
ニハ關係無之トアレトモ窮民授産開墾規則ノ趣旨ヲ體認シ耕耘勞
苦七八年ノ久シキヲ經開墾地ノ人民トナリタル者ニ於テ窮民授産
處分上ノ可否ヲ論議セスシテ誰カ之ヲ論議スルコトヲ得ンヤ然レト
モ始ヨリ處分上ノ可否ヲ論議セシメテ八郎右衛門ニ於テ小作地
引場云々ト非理ノ訴ヲ爲スニ依テ止ムヲ得ス開墾規則ヲ援引シテ
論爭スルニ至リシノミ然ルニ八郎右衛門ノ主張スル所ハ開墾規則
ニ抵觸スルコトナラス何年何月ヨリ八郎右衛門ノ私有地上成リタ
ルトノ證據トスルキ文書モナク又曾テ通知シタルトモナク讀聞カ
セタルコトモナキ小作人取扱規則ヲ証憑トセリ因テ姑ク可否ヲ議論
スル權利上ニ一步ヲ讓リ專ラ審問ニ對シ八郎右衛門ノ私有地トナリ

又ル確証ヲ求メタルニ却テ此ヲ舍テ處分上可否ノ論議ニ關係無之
 ト判決セラレタルハ不明ノ判決ナリト思考ス
 第十六條
 千葉裁判所ノ判決第二條全文ノ意ハ三井八郎右衛門ノ被告タル窮
 民ハ開墾規則ニ依ラサルトノ判決ナル歟若シ然ルトキハ第十條ニ
 論シタル如ク開墾規則第二條ハ有名無實ナル者歟又ハ取消サレタ
 ルモノ歟然ラスシハ開墾規則第三條ニ依リタル窮民ハ處分上ノ可
 否ヲ論議スルノ權チ有スルハ至當ノ條理ナリト思考ス
 第十七條
 小金佐倉牧々開墾地ハ舊來御用地ト唱ヘ野付村々地先進退ノ牧馬
 場ナリシチ窮民授産ノ爲メ壹萬三千町歩ヲ八ヶ年以内ノ開墾ニシ
 テ既ニ千葉縣管内一覽表ニモ開墾地反別ト別段記載シアル地種ニ

シテ地所ノ名稱ニ依レハ野方無税ノ公有地ニ適當セリ又大藏省布
 達地租改正施行規則第十二則新開場鐵下年季中ノ分ハ其年季中無
 税ノ積リ相心得新開試作地反別何程ト相記無代價ノ券狀可相渡事
 トアル廉ト開墾規則第一條中御下金ヲ以開墾仕一旦受作人ト相成
 其入費ヲ十ヶ年内ニ返濟スルトキハ獨立農夫タルヘシトアル廉ト
 參照スレハ普通ノ新聞モ窮民授産ノ爲メノ開墾モ道理上ニ於テ
 異ナルトナク即チ鐵下年季中ノ新開地ニ十ヶ年限リノ拜借金ヲ負
 ヒタル筋ニ相當レリ又証跡ニ就テ論スルトキハ第一條第二條第三
 條ニ記載セシ如ク開墾規則御主意ノ通りナリ然ルニ千葉裁判所ニ
 於テ官立會社ノ社員タル八郎右衛門關係ノ地ハ八郎右衛門ノ私有
 地ト裁判アリ中村初太郎吉田耕太郎關係ノ地ハ公有地ト裁判アリ
 而シテ千葉縣廳ニ於テハ開墾地ハ會社ニ附與セラレタルモノナリ

下無証據ノ事ヲ申立ラレ又明治五年廢局廢社ノ節許多窮民ノ
 内東京ノ窮民ノ開墾地五反五畝步宛下並レ其官有地ノ處
 分ナリ元來一種ノ開墾地ニシテ其處分此ノ如ク異同アリ了解シ
 難シ依テ官公民有地ノ區別ヲ審理セシメ開墾規則第三條ノ趣意判
 然相立シ様審理セラシテ其旨ヲ乞フ事ニ依テ一級ノ地ニ
 判文ニ依テ其旨ヲ申立タリ然ルニ右石塚與兵衛渡邊
 本訴ニ明治八年九月廿五日下總國葛飾郡十餘三村石塚與兵衛ノ控
 訴并明治九年三月廿三日下總國葛飾郡豐四季村渡邊忠兵衛ノ控訴
 其旨趣手續等都テ同様ナル旨申立タリ然ルニ右石塚與兵衛渡邊
 忠兵衛ノ控訴ハ何レモ初審裁判ヲ至當トシ判決ニ及ヒタリ因テ
 本訴ノ義モ同様ノ筋ヲ相心得テ依テ之訴狀下ケ戻シ候事
 明治九年七月三日
 大審院ニ於テ

原告 櫻庭奎之助外六人代人松本善五郎上告ノ要領

第一條

東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ因ル時ハ該會社ハ當
 時府下無籍無産ノ窮民救助ヲ爲メ府下有志ノ者共朝旨ヲ奉シ結社
 セシモノニテトアレドモ開墾規則第三卷前文ニ無籍無産ノ窮民ハ
 永シ産業ヲ被爲授度思召ヨリ被仰出候處就中云々右等ノ者共ヲ始
 メ其外窮民ニ至ル迄御世話被爲在度云々右窮民授産成功ヲ計ルヘ
 シ云々トアル又同規則第二條ニ牧々近在ノ窮民ヨリ開墾加入願出
 候者所置ノ事云々在籍有産ノ貧民ニシテ云々幾坪ノ地ヲ開墾得ハ
 何百文ノ賃銀幾坪ノ草藪ヲ蒔取候得ハ何程之賃銀ヲ定メ或ハ飯米
 位ノ手當ヲ以地所預リ或ハ家作迄貸渡何レモ開墾成就ノ上受作人
 タルヘキ云々生産ニ就候様可致云々トアリ又同規則第九條ニ合般

ノ開墾ハ無籍ノ浮浪士始メ其外農工商ニ至ル迄差加候儀付云々
 トアリ此三個條ニ依レハ牧々近在窮民救助ノ道ヲモ立置カレタル
 朝旨ナルコト明瞭ナリ然ルニ只開墾規則ニ因ル時ハ府下窮民救助ノ
 爲メ下之ニテ近在窮民救助ノコト付テノ判決ナシ故ニ府下窮
 民救助ノ道ハ相分リタレトモ近在窮民救助ノ道相分同難キ判決ナ
 ル夫以テ不法ヲ思考スルハ其ノ旨ニ依リテ其ノ旨ニ依リテ
 第三條ニ依リテ其ノ旨ニ依リテ其ノ旨ニ依リテ其ノ旨ニ依リテ
 同裁判所判決第一條中ニ全民立會社ナリ故ニ小作願書及ヒ小作証
 書ニ會社役人等ノ稱小作上納等ノ辭ヲ用サタリトテ之ヲ官廳ニ對
 スルモノトナシ可ガラサル事トアレハ會社ノ官立ニシテ民立ニ
 ラサル所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ如ク又タトヒ會社ハ官立ニ
 モセヨ民立ニモセヨ第一窮民授産ノ爲メ開墾局ノ設立アリ第二窮

民授産開墾規則ヲ施行セラル、ニ付會社ヲ結ハセラル、方法アリ
 第三小金原開墾被仰出候御規則面ノ通御局御支配小作人ニ被成下
 度云々開墾會社御役人中様ト記シタル小作願書ヲ差出シタリ第四
 地稅御上納又ハ御役所ト記シタル小作証書ヲ差出タリ抑開墾ノ事
 業ハ政府特別ノ恩典ニ出テ其開墾地ハ往時御用地ト唱ヘタル牧馬
 場ナリシチ自分ノ勞力ヲ以テ漸次良田ト爲シ七ヶ年間現ニ其地ニ
 住居セリ左スレハ開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ又
 往古ヨリ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有トナル習慣ニ據ル
 モ小作願書小作証書ハ官廳ニ對シタルモノナルニ官廳ニ對セサル
 トシ判決ハ不法ナリト思考スルハ其ノ旨ニ依リテ其ノ旨ニ依リテ
 第三條ニ依リテ其ノ旨ニ依リテ其ノ旨ニ依リテ其ノ旨ニ依リテ
 同裁判所判決第二條中ニ自費開墾者共貨錢取リ候任人等ハ開墾

規則上其差別アリトシテ元來自分共ニ於テ自費開墾者ト申立タルトナク開墾規則第二條近傍窮民ノ部分ト申立タルナリ然ルニ自費開墾者ト申立タル如ク判決アリシハ不法ナリ

但開墾成功迄ノ入費壹反ニ付金七圓五拾錢程モ相掛リタルニ其貨錢トシテ下渡サレタルハ壹反ニ付金壹圓五拾錢ナリ左大レ入費十分ノ二ハ下金アリタルトモ十分ノ八ハ自分ノ資金ト勞力トニ出タルモノナルニ東京上等裁判所ニ於テ其實際ヲ審理セシメテサカシハ人民ノ損害ヲ保護セラシムル裁判ナルヲ以テ不條原理ナリト思考スル也
第四條開墾人申立タル開墾地ニ於テ開墾者トシテ開墾同裁判所ノ判決第三條中ニ原告人於テ貨錢ヲ受取リタル以上ハ決シテ自費開墾者ニアラス其自ラ云フ所ノ往々地主タルヲ得ヘキ目

的ナリシトハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアリ其文意ヲ推スニ自分共ハ開墾規則第三條ニ依ルヲ得ヘカラサルトノ判決ナリ貨錢ヲ取ルト取ラサルトニ差別アルハ勿論ナレトモ然レトモ開墾規則第二條ニ賃銀飯米家作ノ手當ヲ以テ地所預リ受作人タルヘキトアルニ據レハ賃銀ヲ受取リタリトテ規則第二條ニ依ルヘキモノナルニ規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラサルトノ意ヲ以テ判決セラレタルハ不法ナリ

第五條 同裁判所ノ判決第三條中ニ其小作金ヲ納ルコトヲ拒メルハ元ト官有地ト心得小作セシニ圖ラスモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ付其原因ヲ知ラサレハ納メ難シト謂ト雖モ原告ニ於テ初メ小作人タルコトヲ願出シヨリ以來云々其所有主ノ官私ニ拘テ被告ニ對シ小作

入ノ義務ヲ尽スヘキハ當然ナリトモ所有主官私ヲ拘ラス
 被告ハ對シ小作人ノ義務ヲ尽スヘキハ當然ナリトモ驚愕ニ堪ヘサ
 ルナリ何レナレハ官有私有ノ別ヲ明カニシテ而シテ後土地ヲ引渡ス
 へキ理由アラハ其時被告人ハ對シ小作人ノ義務ヲ尽スヘキハ當然
 ナルニ只官私ヲ拘ラス小作人ノ義務ヲ尽スヘキハ當然ナリトノ判
 決ハ不法ナリト思考ス

第六條 同裁判所ノ判決第三條中ニ諸事被告ノ支配ヲ受來リ今モ仍ホ異ナ
 ルトナシ云々且該地ヲ會社ヘ附與セラレシメテ固ヨリ官廳ニ處分
 ニ關スルコトニテ其當否ヲ被告ハ對シ申立ヘキ筋ニ非スモ其處分
 官廳ニ處分ニテ該地ヲ會社ヘ付與セラレタルモノナレバ其處分ノ
 理由ヲ該地ニ住スル窮民ヘ公示スヘキハ今モ仍ホ諸事ヲ支配スル

八郎右衛門ノ責任ナリ然ルニ其事理曖昧ニシテ土地ヲ引揚ント欲
 スルニ依リ控訴狀第十五條ノ末文ニ其當否ヲ辨シ事理ノ明了セシ
 トテ求メタルニ却テ其當否ヲ被告ヘ對シ申立ヘキ筋ニアラストノ
 判決ハ不法ナリト思考ス

第七條

本件ノ始末ハ明治二年六月開墾局ヨリ施行セラレタル窮民授産開
 墾規則ニ基キ結社セシ開墾會社ノ社員三拾余人ノ内三井八郎右衛
 門ノ代理人市岡晋一郎同社員中村初太郎吉田耕太郎三人ヨリ窮民
 ノ内自分共ノ部類七ヶ村貳百貳拾三人ヘ對シ開墾地ハ八郎右衛門
 外二人ノ私有地ナル旨ヲ以テ小作地引揚ノ訴狀三十三件ヲ加村區
 裁判所ヘ差出タリ因テ自分共ニ於テハ官有地受作人タル旨各自答
 辨セシ處其内八郎右衛門ヨリ石塚與兵衛ヘ對スル一件ノ裁判

其其他千葉裁判所へ差廻サシ同所ニ於テ審理中中村初太郎吉田耕太郎ヨリ立澤甚五郎外三十一人へ對スル件々ハ原告ハ官有地進退入被告ハ官有地受作人等九旨ノ証書爲取換解訟セリ八郎右衛門ノ被告タル百九拾壹人ノ件々ハ明治八年十二月明治九年一月兩度ニ裁判申渡サレタリ依テ被告ノ内石塚與兵衛ハ明治八年九月東京上等裁判所へ控訴シ其他ハ明治九年三月廿三日同裁判所へ控訴シ同所ノ裁判ヲ受テ耕地ヲ引渡シ地稅及ヒ訴訟入費ノ爲ニ身代限ヲ差出シタリ政府特別ノ恩典ニ出タル同種ノ窮民ニシテ其德澤ヲ蒙ルヤ一ナラサルハ不公平ト思考ス

第八條

被告八郎右衛門ニ於テ開墾地引揚請求ノ證據トスル小作証文ハ平民八郎右衛門へ差入タルニアラスシテ政府ノ開墾事務ヲ擔當スル

八郎右衛門へ差入レタルナリ其事理ハ控訴狀第六條ヨリ第八條迄ニ具陳セシ如クナリ然レニ八郎右衛門ニ於テハ自己へ差入レタル証文ナリ其其權限ヲ取り違へ地所引揚ヲ訴出ルト雖モ抑窮民授産ノ開墾ハ八郎右衛門ノ職墾若ル手政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ナル手政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ナレバコソ開墾局ヨリ窮民授産開墾規則ヲ施行セラレ其規則ノ前文ニモ許多ノ窮民授産成功迄ハ中々不容易天事件トテ左ニ示シ右小作証文ハ職務上ヨリ八郎右衛門ニ受取タルモノナルニ其小作証文ヲ以テ小作地ヲ引揚ントスルハ權限外ヲ請求シ思考ス

前條々御審理ノ上原裁判ヲ破毀セラレシコトヲ乞フ

書送ハ被告若井八郎右衛門代入市岡晋三郎答辨書要領書一覽ニ答辨書五分ヲ二章ニシ第二章論争訟ノ大體ヲ就テ呈告ノ不當ヲ辨

解法第三章ハ上告狀ニ就テ逐條答辨ス其答辨ニ付憑証トナラ所
書類ハ今般答辨ナルト三條同旨付渡邊忠兵衛元副告ニ對ス
必答辨書ニ添ヘ差出然則其書目左ノ如クトス

一 証據書類目錄

第一號

千葉縣下等ノ三井八郎右衛門私有開墾地處分ニ付市岡晋吉

開墾取捨ノ委任狀

第二號

一 窮民授産開墾規則第三卷

第三號

一 窮民授産開墾規則第三卷

第四號

一 小作人取扱方規則

一 小作人取扱方規則

第四號甲印

一 下総國開墾地ノ事ニ付東京府ヨリ千葉縣ヘ回答書ノ寫

第四號乙印

一 東京府ヨリ下総國牧々開墾一件ニ付舊印幡縣ヘ演說書中抜書

第四號丙印

一 民部官ヨリ屋作料下渡書及ヒ東京窮民無産者御處置大意

第四號丁印

一 東京窮民授産仕法畧卷ノ一寫

第四號戊印

一 窮民授産取扱方内則寫

第四號己印

一開墾事業顛末大意

第四號庚印

一下総開墾地ノ事ニ付千葉縣ヨリ加村區裁判所へ回答書ノ寫
尙原告人饗庭空之助外六人ニ對スル証據目錄左ノ如シ

第一號

一三井組開墾方へ宛タル小作証文壹通

第二號

一三井組會社へ宛タル貸銀受取書三通

第三號甲

一解訟後入費賞受証書壹通

第三號乙

一詔書壹通

第四號

一 地券証貳拾三通

無號

一開墾會社へ宛タル小作願書壹通

第一章

第一條

原告人共訴ヲル處ノ要旨ハルヤ下総國牧々開墾仰出サレタリ原
告人共ハ開墾ニ從事シ往々地主タルヘキ目的ナリシニ後其地
三井八郎右衛門ノ私有地タリトノ事ヲ聞キ目的相違スルノ事
ヲ根元該地ハ原告人共ニ於テ地主トナルヲ得ヘキ權利アリ三井
八郎右衛門ハ之ヲ私有スヘキ理由ナシト思ヘルモ如シ是ハ原

告人共ハ開墾着手ノ原因ヲ知ラサルニ依テ此妄想ヲ起セシタラシ
 抑開墾ノ擧タル其原因ハ專ラ東京ニ在ル所ニ無籍無産ノ窮民ヲシ
 テ永ク産業ニ就カシムルノ恩典ニ出シモノナリ原告人等ハ舊浦和
 縣下武州足立郡中尾村其他ニ於テ熟レモ在籍有産ノ一農夫アリ其
 持高作地不足等ニテ移住小作ヲ願出シモノニテ決テ窮民ト目スベ
 キモノニアラス故ニ其初發開墾着手ノ際ニ於テ目的トセシ所ノ窮
 民ナルモノトハ全ク性質ヲ異ニスルモノニテ一般ニ恩典ヲ蒙ルヘ
 キ理ナシ

第二條

原告人共ハ素テ窮民ニアラス又開墾規則中ニ所謂力民ナルモノ、
 部分ニ在ラス所謂力民ハ其力ヲ勞セシカ爲メニ別ニ金穀ノ酬ヲ
 得サルニヨリ即チ其力ヲ勞セシ地面ヲ有スルノ酬ヲ得ヘキ理アル

ヘシ原告人共ハ各開墾賃料ヲ受取タリ已ニ賃錢ヲ得又累タルニ其
 地ヲ得ルニ理ナシ然ラハ則チ之ヲ開墾規則中ニ所謂牧近在窮
 民ノ部分ニ看做サ、ルヲ得ス而シテ近在窮民ナルモノハ幾坪ノ地
 チ開墾何百文ノ賃錢ト定メ開墾成就ノ上ハ請作人タルヘキ條約
 而シテ生産立ヘシトシ明文アリ故テ原告人共ノ如キハ之ヲ規則
 上ヨリ論テ成テ條理上ヨリ論タルニ共ニ請作人タルヘキ判然ナ
 シモシニテ到底地主トナシ得命カヌサセテ其ノ理ニ依テ
 第一條ノ第三條ノ下ニテハ其ノ賃料ハ其ノ内ニ請作小作人
 原告人共ハ該地ニ移住セザルニ官有地ニテ開墾會社官立
 手ノ小思ニテ故チ小作願書及小作証書トモ官廳ニ捧出シ其
 中ニ申立アリ然レバ原告人共カ差出タル小作願書開墾會社役
 人共宛テ其交用ニ會社小作人ニ被成下ト言ヒ又其小作証書該地

三井八郎右衛門ノ私有ニ歸シタ後テカ故三則三井組開墾方
 書シ又其同頭ニ貴所様御持畑ノ内小作下請仕候下掲其後明治五
 年ニ小作金差次方等閑客ル上越訴及ヒ其末詫書者出シ又高田
 村秋山彌平次等ニ同意シ地所買取并賃銀受取方ニ義ヲ千葉裁判所
 へ出訴ノ未遂ニ願下チナセシトキ貴殿御持地ノ内へ移住小作罷在
 候ニ付テハ約定以都度々々書面差込確定致シ居候チ心得違致シ云
 々々一札チ差出シ察リ是ノ原告人共ハ最初該地ハ三井八郎右
 衛門ノ私有地タルヲ信認致又其小作人等共モ甘心セシ明正
 シ官有地前認メ及非ル可瞭然然リ上ノ前條
 前條ニ陳述タル如クテ原告人共該地主カ然テ得テ
 ナキ事明カナリ而シテ該地三井八郎右衛門ノ私有地タル事証ハ第

一舊印幡縣廳ヨリ下付セラレタル地券証アリ其他之チ私有スヘキ
 理由アル所以以豊四季村渡邊忠兵衛ノ上告狀ニ對シ答辨セシ通
 今更ニ其後ニ得テ之ヲ以テ原告人共
 上告第三章
 第一章
 上告狀第一條ニ對スル答辨ノ旨意ハ前文第三章第一條申開陳ス
 形如シ故ニ東京上等裁判所ノ判決ハ不法ニアラス思考ス
 第二章
 上告狀第二條ニ申立テ原告人共同差出シタル小作証文ノ體面ヲ
 見レ其官廳ニ對スルモノニテテラサレテ判然タリ故ニ東京上等
 裁判所ノ判決ハ不法ニアラス上思考ス
 第三章
 上告無効第三條申立テ原告人共東京上等裁判所ノ判決ハ不法

上告狀第三條申立ハ原告人共カ東京上等裁判所へ差出シタル控
 訴狀ヲ閱讀シテ不審ケルハ果シ果自費開墾者ト申立タルトナカリ
 ヌヤ否ヲ識別セズ故ニ之カ答辨ヲナスト能ハサルナリ然レモ原
 告人共於今日申立ル所ノ要點ニ開墾規則第三條近傍窮民ノ部分ナ
 リト云フニ在リ而シテ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ規則第二
 條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモウナリトテ原告人共カ今日
 申立ル如ク判決スルシモウニシテ此判決ヲ不法トスル理由ヲ發見
 シ得サルナリ

上告狀第三條但書ニ開墾成功マテノ入費云々ト申立レトモ實際
 夫程ノ入費ヲ掛ケタルトハ之レナシト思量セリ今姑ク原告人共
 以言フ所ニ從ラモ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ已ニ近傍窮
 民ノ部分タルヲ知ル上ハ賃錢ノ少キト勞力ヲ用非シトハ素ヨリ

得心ノ上取掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スル節無ク
 トアリ此判決ヲ見レハ東京上等裁判所ニ於テ入費ノ實際ヲ審理
 セラルヘキ道理ナキトテ會得スルニ足ルヘシ

第四條

上告狀第四條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決第三條中ニ規則第二
 條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアリ此ノ如キ明文アル
 上ハ東京上等裁判所ニ於テ原告人共ハ開墾規則第二條ニ依ルヲ得
 ヘカラスト判決セラレタルニアラサルト明瞭ナリ

第五條

上告狀第五條ノ申立ハ假令其地ニ官有ナルモ私有ナルモ小作人々
 ルノ分限ヲ以テ小作金ヲ差拒ムノ理アルトナシ況ンヤ原告人共ハ
 初メヨリ三井八郎右衛門ノ私有地タルヲ識認セシモノナルトハ小

作証書ニ於テ明瞭ナリ

第六條

上告狀第六條ノ申立ハ固ヨリ三井八郎右衛門ハ官吏ニテラサレハ該地ヲ會社ヘ付與セラレタルノ當否ヲ論スルノ權ナク又原告人共ニ向テ之ヲ説明スルノ責任モナシ故ニ右判決ハ不法ニアラスト思考ス

第七條

上告狀第七條ノ申立ハ八郎右衛門ノ關係セシコトニアラス原告人共ニ於テモ他人ノ事ヲ援引シ以テ不公平ト云フヘキ理之レナシ

第八條

上告狀第八條ノ申立ハ前文第一章第三條ノ辨解ニテ明瞭ナリ

第一條

上告狀第一條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決ヲ了解シ得サルニ出テタルモノトス何トナレハ東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ因リ時ニ該會社ハ當時府下無籍無産ノ窮民救助ノ爲メトアリテ開墾地近傍窮民救助ノ事ヲ舉ケサリシハ開墾會社ノ民立タルヲ辨明スル爲メ該會社ハ開墾規則ニ因リテ成リ立チタルモノトシテ其成リ立チタル原因ハ首トシテ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テタルトナリ辨スルニ在レハナリ而シテ其首トスル所ノ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テタル証ハ原告引証スル所ノ開墾規則前文中ニ就中東京ノ儀ハ非常ノ御變革被爲在候ヨリ俄ニ無籍ト相成候者不_レ少云々右等ノ者共ヲ始メ其外窮民ニ至ル迄_レアリ又原告引証スル所ノ開墾規則第二條ニ開墾地近傍在籍有産ノ窮民ト東京府下ノ無

籍無産ノ窮民トハ差別アル可ク記シ同規則第九條ニモ今般ノ開墾
 無籍ノ浮浪士ヲ始シ其外農工商トアルヲ以テ見ルニ故ニ東京
 上等裁判所ハ救助ノ首トスル所ヲ擧ケタル迄ニテ開墾地近傍窮民
 救助ノ道ハ立テ置カレサル朝旨ナリ其判決セシニアラス而シテ原
 告ニ於テ相分リ難キト申立ル近傍窮民救助ノ事ハ開墾規則第二條
 三明記シアル上ハ東京上等裁判所ハ此判文ニ於テ開墾地近傍窮民
 ノコトヲ擧ケザリシトテ少シモ上告人ハ權利ニ妨害ナキニ因リ其擧
 ケザリシヲ以テ不法ヲ裁判トスルヲ得ス

第三條
 上告狀第二條ノ申立ニ付キ小作願書小作證書ノ果シテ官廳ニ對ス
 ルモ之ナルヤ否ヲ判決スルニハ先シ其小作願書ヲ受取リタル開墾
 會社ハ官立ナル乎民立ナル乎小作證書ヲ受取リタル三井組開墾方

ハ何等ノ性質ヨリ成リ立チタルモノナルカヲ定メサルヘカラス而
 シテ原告ハ會社ヲ官立ナリトスル所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ
 如ク申立ルニ依リ控訴狀第一條ヲ按ズルニ其引証スル所三箇條
 一其第一條ニ依リ其第一箇條ハ開墾規則前文ニ會社ヲ爲結所アル是
 并リ然ルニ會社ヲ爲結所アル前後之文ニハ許多ノ窮民授産成功迄
 ハ中々不容易大事件ニ付政府以御世話而已トテ御手ノ十分ニ難
 被爲届御場合モ可有之依テハ今般東京始シ其外開墾ニ加テ致度志
 願ノ者ニ會社ヲ爲結自分金穀ヲ以テ開墾致度者ハ富民ノ部ニ入ル
 又ハ志ヲ有之候トテ自力無之者ハ力民ノ部ニ入ル富民力民相互ニ
 助ケ合云々トテ此意ヲ解釋スルハ窮民授産ノ事ハ當時政府以
 世話ニ依リテ行届キ難キ場合モアルニ依リ志願ノ富民力民ニ會
 社ヲ結ハセ開墾ニ從事シ窮民授産ノ道ヲ立テシムルトテ其故

旨志願者云と會社ヲ爲結社云と自分簽毅ヲ以テ開墾致度者云
 云旨志ハ有之候ト任自助無之者ト云ヒ歴考皆會社ノ民立也ト云
 旨トモ云ヒシテ毫毛會社ヲ官立タル可旨旨ト云文意ハ然也則
 原告以所謂會社ヲ爲結社云ト却安會社ヲ民立タル証ト云足
 証トモ云ヒシテ會社ヲ官立タル証ト爲ス得也又第三箇條第三箇
 條ヲ引証シ開墾規則第八條ニ會社役人撰舉ノ事云々役職可申付等
 ニ付云々會社ニ般決議ノ事可申立事云々同規則第十條ニ開墾
 御趣意ヲ拜承致シ願人或有志者輩會社ノ者ニ内談等有之節ハ其
 旨委細書取ヲ以當局ヘ可届出筈萬一心得違致シ私ニ願書預リ又
 如何敷稅重唱竊ニ金銀ヲ欺取云々ト云ル是ナリ原告ハ會社ノ社員
 カ右兩箇條ニ如ク開墾局ノ命令ヲ受ケルニ依リ會社ヲ官立証ナ
 リト云レトモ抑開墾會社ノ成リ立チタルヤ政府ニ於テ先ツ開墾局

ナ置キ開墾規則ヲ設ケ其規則ニ據リテ富民力民ニ會社ヲ結ハセタ
 ルモノナレハ會社カ此規則ニ賴ツテ就業スヘキハ結社ノ初ヨリ定
 然ナルモノナリ是故ニ開墾局カ右三條ノ如ク會社ノ事務ニ干與ス
 ル所以ノ者ハ所謂許多ノ窮民ヲシテ授産セシムルハ容易ホラサル
 大事件ナルヲ以テ之ニ從事スルモノヲ監護スルニ出ルモノナルコ
 ハ明瞭ナリト云左スレハ會社カ開墾局ノ命令ヲ受ケルハ固ヨリ當
 然ノ事ニシテ其命令ヲ受ケタリトテ會社ハ官立ナリトノ証ト爲ス
 ナ得ス又原告ニ於テタトヒ會社ハ官立ニモヒ民立ニモヒ自小作
 願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノナリト申立レトモ會社ノ官立ハ
 ル乎民立タル乎ヲ問ハスシテ獨リ小作願書小作証書ノモヒ依リ官
 廳ニ對スルモノト爲スナ得サル者ト云原告ハ第二窮民授産ノ爲メ
 開墾局ノ設立アリ第二窮民授産開墾規則ヲ施行セラルハニ付會社

結ハセラル、ノ方法アリト云フ下雖モ開墾局ニテ規則ヲ立テ會社ヲ爲結タルモノナレハ開墾局ト會社トハ判然タル區別アリト云フ而シテ其會社ヲ爲結トアルハ官ヨリ人民ニ指揮ヲテ會社ヲ結ハシメシトニテ即チ會社ノ民立タルノ証ニシテ官立タルノ証ト爲スヲ得ス第三ハ小作願書ニ御局御支配小作人開墾會社御役人中様ト記シタリト云フト雖モ前ニ辨明セシ如シ民立タル會社ニ差出シタル小作願書ハ之ヲ官廳ニ對スルモノト爲スヲ得ス第四ハ小作証書ニ地稅御上納御役所ト記シタリト云フト雖モ其名宛ハ會社中ノ一人決シテ三井組開墾方ニテ其証書ノ首ニ貴所様御持畑ノ内小作下請仕云々ト記シ又末文ニ御會社ノ御規則屹度相守可申下アルニヨシハ固ヨリ官廳ニ對セルモノト爲スヘカラス是ニ由テ之ヲ觀レハ原告告カ所謂開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ會社ハ民立

ニシテ官立ニアラサル上ハ小作願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノニアラストス又往古ヨリ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有ト爲ル習慣ト申立レ右ハ他人ノ給與ニ依ラス獨立シテ開墾セシ者ノ事ニシテ此案件ト其性質ヲ異ニセシ者ナリト右ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所カ會社ノ民立タルトチ辨明シ小作願書及ヒ小作証書ニ會社役人等ノ稱小作上納等ノ辭ヲ用非タリトテ之ヲ官廳ニ對スルモノト爲スヘカラスト判決シタルハ不法ノ裁判ニラストス

第三條

上告狀第三條ノ申立ニ依リ原告ハ東京上等裁判所ニ於テ自費開墾者ト申立タルトナキヤ否ヲ審査スルニ明治九年六月九日同裁判所ニ於テ原告ノ口供第一項ニ下總國葛飾郡十餘二村新塚與兵衛并同

郡豐四季村渡邊忠兵衛控訴下都元同様依テ明治九年五月廿四日忠兵衛カ口供ヲ檢ズルニ自分金穀ヲ以テ開墾致シ候者ハ往々該地ノ所有主タルヲ得ヘキ旨承取云々自費ヲ以テ開墾致シ云々自分ノ如キ自費開墾セシ者ハ云々トアレハ自費開墾者ト申立タルト明カナリ故ニ東京上等裁判所ハ自費開墾者ト賃錢取小作人トハ開墾規則上其差別アリ而シテ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以上ハ決シテ自費開墾者ノ部分ニアラスト判決セシモノナレハ不法ノ裁判ニアラストス

上告狀第三條但書ノ申立ヲ審理スルニ原告ハ開墾規則第三條ニアル近傍窮民ノ部中タルトニ異論ナキハ本條ノ申立ニ因テ明瞭ナリ既ニ近傍窮民ノ部中タルニ異論ナキ上ハ東京上等裁判所カ入費ノ實際ヲ審理セサリシヲ不條理ト爲スヲ得ス何トナレハ開

墾地近傍窮民處置ノ事ハ開墾規則第二條ニ明文アレハ此條ニ依テ處置ヲ受クヘキモノニテ固ヨリ入費ノ實際ヲ審理スルヲ要セサレハナリ故ニ東京上等裁判所ニ於テ已ニ近傍窮民ノ部分タルヲ知レル上ハ賃錢ノ少キト勞力ヲ用非シトテ素ヨリ得心ノ上取掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生ズル筋無之ト判決セシモノナレハ條理ニ適シタル裁判ナリトス

第四條

上告狀第四條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判文ヲ誤解セシモノトス何トナレハ判文第三條中ニ原告人於テ賃錢ヲ受取タル以上ハ決シテ自費開墾者ニアラス其自ラ言フ處ノ往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシトハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアルハ原告カ自費開墾者ナリトシテ申立ニ對シ自費開墾者ナシハ賃錢

チ受取ルヘキ理由ナシ既ニ賃錢ヲ受取タル上ハ自費開墾者ニアラ
 ス又自費開墾者ナレハ初ヨリ地主タルノ權ヲ有スルモノナレハ往
 ヲ地主タルヲ得ヘキ目的ナリシト云フハ是亦自費開墾者ナリトノ申立
 ニ適當ニ畢竟原告ニ於テ賃錢ヲ受取リテ云ヒ又往々地主タ
 ルヲ得ヘキ目的ナリシト云フハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ
 論スルモノナリトノ意ニテ原告ハ規則第三條ニ依ルヲ得ヘカラス
 ト判決セシメアラサルヲ以テ即チ規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラス
 ナリト判決セシメテ故ニ自己ニ誤解法以テ此裁判ヲ不法トスル者
 得ス

第五條

上告狀第五條ノ申立ニ付東京上等裁判所ノ判決第三條中ニ所有主

ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然云々ト
 アルヲ密接スルニ此判文ハ原告ニ於テ小作金ヲ納ルコトヲ拒ムルハ
 元官有地ト心得小作セシニ圖ラスモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ
 付其原因ヲ知ラサレハ納メ難シトノ申立ニ對スルモノニテ小作金
 チ納ムルノ義務ハ所有主官私ニ因テ之ヲ納ムルト納メサルトノ
 區別ヲ生スルモノニアラス故ニ原告ニ於テ小作人タラント願出
 小作証書ヲ差入タル上ハ該地ノ官有タルト私有タルトニ論ナク其
 小作人タルコトハ明白ナリ已ニ小作人タレハ其小作証書ノ名宛人即
 チ被告人ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ意ナリ
 ス然ルニ原告ニ於テハ官有私有ノ別ヲ明カニシテ而シテ後土地ヲ
 引渡スヘキ理由アラハ其時被告ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ
 當然ナリト云フ小雖モ該地ノ官有タル乎私有タル乎ハ原告ニ於テ

論スヘキ事ニアラス何トナレハ原告ハ初メヨリ小作証書ヲ被告ヘ
 差入被告ノ支配ヲ受ケ來ルモノナレハ其小作人タルノ契約ヲ履行
 スヘキモノナレハナリ然ルニ其契約ニ背キテ小作金ヲ差出スルヲ
 拒ムニ依リ小作地引揚ヲ訴ヘラシタルモノナレハ原告カ所謂地所
 引渡スヘキ理由ハ判然著明ナリトテ故ニ東京上等裁判所ニ於テ
 其所有主ノ官私ニ拘ラス被告ヘ對シ小作人ノ義務ヲ盡スルニ當
 然ナルニ之ヲ差拒メルヨリシテ地所引揚シトスルハ証書上ニ對
 シ不當トスヘカラスト判決シタルハ適當ノ裁判ナリトスルハ當
 第六條
 上告狀第六條ノ申立ヲ審理スルニ被告ニ於テ地所引揚シトスル
 ハ原告カ小作証書ヲ差入ナラシ小作人タルノ義務ヲ盡サズルニ出
 テ其事理ノ明瞭ニシテ東京上等裁判所ノ判決ノ不法ニアラサルコト

ハ已ニ第五條ニ辨明セシ如シ然ルニ原告ハ控訴狀第十三條及ヒ第
 十五條ノ末文ニ於テ却テ被告竊地所ヲ得ルニ確証ヲ知リ得ンコトヲ
 求メタルノミナラズ控訴狀第三條同第三條同第十五條同第十六條
 ニ於テ該地處分上ノ事ニ論及セリ抑原告ハ初メヨリ被告ヘ小作証
 書ヲ差入小作人タルニ對シテ其義務ヲ盡スルニ對シテ地所引揚
 得ルニ理由ヲ知リ得ント求ムヘキ權利アルコトナシ且該地ヲ會社ヘ
 附與スルニ對シ官廳ニ處分係ルニ差出ナレハ民立會社ノ社員ナ
 前記被告ニ於テハ官廳ノ處分係付其處分ノ理由ヲ說明スルニ責任ヲ
 負フモノナリ故ニ東京上等裁判所ハ判文第三條ノ結尾ニ於テ該地ヲ
 會社ヘ附與セシメシコトハ固ニ官廳ノ處分ニ關スルコトニテ其當否
 之被告ニ對シ申立シ筋京五等裁判決選モ差出スルコト不法ノ裁
 判ニアラズトシ

第七條

上告狀第七條第八條ハ東京上等裁判所ハ裁判ニ對スル申立ニテ
 前條ニ以テ大審院ニ於テ辨明ヲ與セラル限ニ在ラズトシテ其審判
 前條ニ如クナルヲ以テ大審院ニ於テ東京上等裁判所ハ裁判ヲ破毀
 スル理由ナキニ因リ上告狀却下ナル者也
 第七拾七號
 〇窮民接産開墾地争論一件上告ノ判文
 明治九年八月廿八日
 明治十一年五月廿七日
 原告 登利 登利 千葉縣下下総國葛飾郡
 被告 高田村平民關口市郎右
 衛門外三拾貳人代人

東京府下第一大區九小

區出雲町三番地平民
 被告 小川源助外四十三人
 油小路通二條下
 油小路町三百四番地平民
 三井八郎右衛門代人
 千葉縣下下総國葛飾郡
 市岡晉一郎
 千葉裁判所
 三井組代理市岡晉一郎
 小川源助外四十三人
 係小作金權促

地所引上段訴訟遂吟味處原告於元來開墾地之儀ハ去ル明治
 二巳年六月中當時東京府下ニ流落セル無籍無産ノ窮民ヲ移シ專ラ
 就産ノ途ヲ得セシメシカ爲メ會社設立相成ル御主趣ニ從ヒ富民ノ
 者篤キ朝旨ヲ奉シ同志協力結社シ者ニ其被告ノ如キ有籍有産者
 ノ救助ヲ專ラニスヘキ儀ニ非ズ然ルニ土地開墾ハ初ヨリ會社
 へ附與セラレシ事開墾規則上自ラ其趣意含蓄モ殊ニ同三午年十
 月中窮民引受數ニ應シ社中各持地決定更ニ區分相立候ニ付即今
 被告へ小作セシメ置ク地ハ三井組所有ニ相成リ已ニ同四未年中小
 作人取扱規則ニ從ヒ小作証書ヲ取置ル處約旨違ヒ小作金淹滞ノ
 ミナラス開墾規則第二條ニ依リ土地買取ル可キ權利ヲ其旨法以テ
 同六年十二月中訴訟ヲ起シ其後願意不相立美悟一旦解訟ニ及ヒ
 ナカラ尙依然トシテ小作人ノ義務ヲ尽サザルニ付証書約定ニ基キ

小作金ハ勿論地所ヲモ引上度旨申立タリ
 被告於テハ明治二巳年六月頒布相成ル開墾規則第壹卷第三條ニ基
 キ明治三午年三月中會社へ願出許可ヲ得テ拾壹町四反九畝拾步以
 地ヲ開墾シ明治四未年十月三至小作証書差入以來該地ハ官有
 ニシテ會社ハ則チ官設地ニ得約定通小作租上納以來該處其後原
 告擅ニ私有地ニ趣申聞ルニ付爾後納稅差拒ミ及リ抑該地開墾旨
 趣々少ヤ專ラ窮民授産之恩典ニ出テ該處モハ其旨富民ノ者ニ土
 地可賜謂無之故ニ開墾局へ差出シタル願書中或ハ小作証書等ニ私
 有地ニ文休ハ有之トモ曾テ社員ヲ地主ト看認メタルニ非ズ全ク一
 時以誤謬ニ付明治六年十二月中當裁判所へ右地所買取增賃銀請取
 以儀出訴致候處願意不條理相心得但訴狀願下候得共尙熟
 考案以ハ右願下ケ致候候矢張誤解ニ由生シタル儀ニテ固由リ

社員ハ該局ノ吏員ニシテ地所ハ官有地ト心得ルニ付小作金區直ニ
 官ハ上稅可致筋力カ故テ原告等對該納稅然勿論地所引渡候儀
 難相成旨申立候内明治六年十二月廿三日中管縣時限ニ付該地所引渡
 因テ左之通判決スルニ付原告等不服申立候事ハ原告等ハ明治六年
 被告於テ最初開墾局ニ差出タル願書及ヒ小作証書ハ私有地ノ文
 体ニ認メタル所アルモ右ハ當時ノ誤寫ニシテ元來官有地ト心得
 以テ明治六年十二月地所買取云々ノ儀當裁判所ニ出訴致シ其節
 一旦非理ナルヲ自認シ訴狀願下テ致セシ處猶之テ願以テ右願下
 也モ亦誤謬ニ出タル旨今更申立ルト雖モ開墾規則及ヒ小作取
 扱規則ヲ參照シ又其土地ハ管轄ハ千葉縣應以證明タル所ニ據ル
 該地ハ會社ニ附與セラレシモノニテ全ク原告ノ私有地ト可相心

得事... 第三條... 被告... 加入致シタル筋言無芝固
 小作取扱規則ニ據ルハ被告等會社ニ加入致シタル筋言無芝固
 該社外該小作取扱規則其義務ヲ盡ス迄テ該地ハ以テ窮民授産處分
 並ニ事會付可否論議ニ其關係無芝事斷與該社無干也亦小作
 取扱規則第三條前項ニ違ハ該地所引渡ニ付及シテ該地ハ原告等
 前二條之通ニ付被告於テ証書面約定ノ義務ヲ欠キ別ニ原告等
 督促ヲ抗拒以前ニ權利無芝間小作金區直勿論地所引渡原告等可引渡
 事 明治八年四月廿四日 原告等 關口市郎若衛門外三平五郎代理人 松本善五郎 控訴
 東京正等裁判所ニ審判ニ付開墾志願ノ旨明治三年二月廿四日中管縣時限ニ付
 原告等關口市郎若衛門外三平五郎代理人 松本善五郎 控訴
 明治八年四月廿四日 原告等 關口市郎若衛門外三平五郎代理人 松本善五郎 控訴

明治二己巳年春月中窮民授産ノ爲メ下総國小金佐倉牧々開墾仰出
 サレタ身自分共ハ有開墾地近傍之窮民大抵春以悉窮民授産開墾規
 則第一卷第三條ニ依リ開墾志願ノ旨明治三年二月中舊開墾會社へ
 出願シ小金源字高田臺牧ト稱スル荒野拾壹町四反九畝拾歩ヲ引受
 開墾シ明治四年十月廿五日ニ至リ開墾規則第一條ニ基キ壹反ニ付金壹圓
 五拾錢之割ヲ以貨銀半渡積成更ニ小作証交々儀ハ明治四年十月
 明治五年十一月兩度ニ差入耕地壹反ニ付貳拾五錢ノ上稅致スヘキ
 旨開墾會社同書申渡シ其際舊葛飾縣勸農掛鍋木平馬ヨリ右小作
 証文名當小三井組開墾掛由記蓋々旨廻狀ヲ以テ順達セシメ
 乃チ承諾シ小作証交差入納稅致々來リ然ル處三井八郎右衛門ヨリ
 右地所ノ地券狀御下ケ願チナシタル趣ヲ聞キ大ニ驚キ掛合中三井
 組等於テハ小作証文ヲ以テ私有地ノ証憑トシ加村區裁判所へ出訴

ノ末千葉裁判所ニテ結局三井組私有地ニ付小作金ヲ償却シ地所引
 渡スヘシトシ裁判ヲ受タリ右裁判ハ不服ニ付別紙第一號ヨリ五號
 迄ノ書類ヲ證據トシ控訴スルヘシ如シ

證據書類目錄

- 第一號 窮民授産開墾御規則
 - 第二號 葛飾縣勸農方廻狀
 - 第三號 小作稅納之通
 - 第四號 加村區裁判所へ具上セシ答書
 - 第五號 千葉御裁判所裁判狀
- 第一條 開墾會社ハ官立ニシテ其社員ハ開墾ノ事務ヲ擔任シタル所以ハ窮
 民授産開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアリ又同規則第十條ニ開墾之

御趣意ヲ拜承致シ願入或ハ有志之輩會社之者ニ内談等有之候節ハ其旨委細書取リ以當局ヘ可届出管萬一心得違致シ私ニ願書預リ又ハ如何敷税ト唱竊ニ金銀ヲ欺取云々同第八條ニ會社役人撰舉ノ事云々役儀可申付管ニ付云々會社一般決議ノ上可中立事トアリ此數條ニ據レハ會社ノ官立タルハ勿論其社員ハ開墾局ノ命令ヲ受ケ窮民授産上ノ職務ニ從事スル迄ノ者ニテ一人一己ノ私意ヲ行フヘキ者ニアラサレハ其社員タル被告三井八郎右衛門ニ於テ其地ヲ私有スルノ權利ナカルヘシ

第二條

開墾規則第三條ニ自分金銀ヲ以開墾加入願出候者所置之事云々三町步之地ヘ窮民一人引受云々上ヨリ拜借金ノ内ヲ以一人分ノ入費ヲ下遣シ云々會社ヘ示談可致云々トアリ此條ニ依リ自費開墾願出

タル者ト被告八郎右衛門ノ如キ開墾規則ノ前文ニ依リ會社ヲ結ビタル社員ト別異ナルトハ第三條中ニ會社ヘ示談可致トアルヲ以テ判然タリ故ニ八郎右衛門カ窮民ヲ引受クハトテ開墾規則第三條ニ據ルヘキモノニアラサルヘシ然レドモ窮民ヲ引受ケタルヲ以テ規則第三條ニ照シ三町步ノ地ヲ所有スルモノトセハ自分ノ如キ規則第二條ニ依リタル者ヲ除キソノ他ニ於テ所有スルハ格別規則第二條ノ趣旨ヲ妨クヘキ條理ナカルヘシ

第三條

開墾規則第六條中ニ成功之入費中々牧々開墾ノ利ヲ以補フニ足ラストアリ又同規則第四條ニ縱令ハ地主トナリ拾坪ヲ開候者ハ外ニ壹坪半ノ地ヲ開キ會社ヘ差出スヘシ云々窮民授産ノ世話而已致候者ハ寸地モ無之儀ニ付右地所相當ノ割ヲ以相渡往々其身土著ノ法

相立可申事トアリ此二條ヲ照合スルニ開墾ノ利ヲ以テ入費ヲ補フニ足ラサルニ依リ拾坪ヲ開ク者ハ壹坪半ヲ會社ヘ差出スヘシトアルナリ凡利ヲ得ル者ハ元ナキコト能ハス即チ拾坪ハ元ニシテ壹坪半ハ利ナリ然ルニ元利ヲ併セテ會社ノ所有ナリトスルハ開墾規則前文ニ銘々一己ノ利欲ニ走リ云々窮民授産ノ御成業ヲ害フ間敷トアル趣旨ニ抵觸スルヲ以テ被告八郎右衛門ニ於テ擅ニ開墾地ヲ引揚ントスルハ私欲ノ所業ナリ

第四條

千葉裁判所ノ判決第二條中ニ小作人取扱規則ニ據レハトアリ之ヲ政府ノ小作人取扱規則トスレハ其地モ亦政府ノ地ナリ之ヲ平民八郎右衛門ノ小作人取扱規則トスレハ同裁判所ノ判決第一條中ニ開墾規則ニ參照シトアリ政府ノ小作人取扱規則ト八郎右衛門ノ小作

人取扱規則ト一地所ノ上ニ並行ハルヘキ理ナシ右ハ八郎右衛門ノ地ニ政府ノ規則ヲ施行セラレタル歟又ハ八郎右衛門ノ規則ト政府ノ規則ヲ參互シ而シテ其地ハ八郎右衛門ノ地下見認メラレタル歟官民混淆事理明了ナラス因テ小作人取扱規則ノ成リ立チ及ヒ開墾地ニ付テノ權限ヲ審理アラントナク

第五條

千葉裁判所判決第一條中ニ開墾規則及ヒ小作人取扱規則ヲ參照シ云々原告ノ私有地下可相心得事トアレトモ開墾規則第何條ニ據ルトノ記載ナシ又小作人取扱規則トハ政府ヨリ施行セラルル規則ナルヤ八郎右衛門ノ設立シタル規則ナリヤ其判決明カナラスト雖モ抑此開墾ハ窮民授産ノ爲メ政府特別ノ恩典ニ出テタルトニテ開墾規則第二條ニ依リ賃銀飯米家作ノ御手當ヲ蒙リ受作人トナリ自力

出來次第右地所買取地主トナルヘキ方法ナリ此ノ如ク政府ノ開墾局ヨリ政府ノ規則ヲ以テ政府ヨリ御手當ヲ被下受作人トナリ又其地ヲ買取ルトナ得ル旨政府ヨリ普ク人民ヘ示サレタル上ハ斷然政府ノ地所ト謂ハサルヲ得ス假リニ之ヲ八郎右衛門ノ私有地ト看做スモ八郎右衛門ノ私有地ヘ政府ヨリ開墾局并ニ規則ヲ立テラレ其規則ヲ普ク人民ヘ示サルヘキ理ナク又政府ニ於テ八郎右衛門ノ事務ヲ行ハルヘキ理ナシ然ルニ詞訟ノ末忽然顯ハレタル小作人取扱規則ヲ以テ窮民授産ノ方法ヲ害スルニ付テハ當初施行セラレタル窮民授産ノ廢止取消ニ相成タル歟小作人取扱規則ヲ以テ窮民ノ無住無産トナルヘキトテ執行セラル、モノ歟前後ノ規則區別相立ツ様審判アラントテ乞フ

第六條

小作証文中ニ貴所様御持ト記シタルハ八郎右衛門ヘ對スル語ニ似タレトモ御持トハ御持場御持主ノ二様ニ涉ル字ニテ御持主ナレハ八郎右衛門ヲ指シタルニ相當リ御持場ナレハ其職務ヲ指シタルニ相當リ判然ナラス又同証文中ニ三井組開墾掛中ト記シタルハ政府ノ開墾會社ノ事務ヲ預リタル社員ヲ指シタルニ當レトモ若シ是シ八郎右衛門ノ開墾掛中トスルトキハ開墾ノ事業ハ政府ヨリ窮民授産ノ爲メニセラル、開墾ナル歟三井組ノ開墾ナル歟其原由ヲ審理アラシトテ乞フ

第七條

小作証文中ニ地租ト記シ御上納ト記シ御役所ト記シタルハ則官ニ對スル語ナリ左スレハ此三語ヲ以テ小作証文ハ其職務ヘ對シ差入シタルト判然タリ既ニ八郎右衛門ハ會社ノ役員ナルヲ以テ上税ハ

勿論都テ違背ハ仕間敷ト記シタルナリ然ルニ八郎右衛門ハ其職務上ニテ受ケタル小作証文ヲ以テ私有ノ証トスルハ平民ノ内八郎右衛門ニ限リ地稅御上納御役所ノ名稱ヲ許サレタル者歟若シ許サレタルモノトセハ其許サレタルヲ承知セスシテ差出シタル小作証文ハ其承知セサル廉ゾ以テ取消サレントテ乞フ

第八條

小作証文中ニ御會社ノ御規則ト記シタルハ政府ノ恩典ニ出テタル窮民授産開墾規則前文ニ志願ノ者ニ會社ヲ爲結云々トアルヲ指シタルモノナリ若シ茲ニ八郎右衛門ノ開墾地アリ八郎右衛門ノ規則アリトスレハ政府ノ開墾地ノ幾部分ヲ何年月日ニ八郎右衛門ニ分割セラレタル歟若又開墾ノ事業ハ最初ヨリ八郎右衛門ノ如キ開墾會社社員ノ事業ナリトセン歟然ルトキハ平民ノ開墾地ニ政府ヨリ

局ヲ設ケ政府ノ窮民ヲ平民ノ開墾地ニ於テ授産スル規則ヲ施行セラレタルモノ歟其開墾ノ其規則トノ根源ヲ審理アラントテ乞フ

第九條
千葉裁判所ニ於テ三井八郎右衛門ノ口供ニ開墾規則第五條ニ依リ金札貳拾萬圓會社一同ニ基金トシテ貸下ケ相成候分明治五年五月中廢局廢社ノ砌右拜借金貳拾萬圓ハ其儘會社并ニ窮民ニ下賜候旨被仰渡候ニ付窮民共ニ貸渡候金穀ハ勿論其他悉皆渡切ニ相成爾後獨立ノ農夫ト相成候トアレトモ東京ノ窮民ハ開墾規則第一條ニ依リ三ヶ年ノ間衣食住ハ勿論萬事御世話ヲ蒙リ受作人トナリタルモノナリ近在ノ窮民ハ開墾規則第二條ニ依リ賃銀飯米家作ノ御手當ヲ蒙リ受作人トナリタルモノニテ窮民ノ差等ニ隨ヒ御救助ノ厚薄アリト雖モ拜借金ヲ會社并ニ窮民ニ下賜ル旨仰渡サレタル上ハ東

京の窮民モ近在の窮民モ窮民多ルノ別ナカルシ然ルニ東京の窮民ノ金穀其他ノ御貸渡ヲ被下切ニ相成近在の窮民ハ御下渡ノ銀被下切ニ相成ラズ均シク政府ノ恩典ニシテ之途ニ處分セラレハキ管キキム勿論ナシハ次郎右衛門其他ノ社員カ方法ヲ曲ケ事務ヲ取扱ヒタルコト判然アリ故ニ其不當ヲ審理セラレシコト乞フ

第十條 前條の如ク依シテ次郎右衛門於テハ東京窮民ノ外開墾ニ着手セシ窮民ハ開墾規則第二條ノ部内ニ非サル者トシテ歟然ルモキハ開墾規則第三條ハ有名無實ト看做シタル歟已ニ窮民授産ノ規則アリ其規則ニ適當シタル窮民ニシテ現ニ其規則ノ事業ヲ踐行シタルニ却テ規則ニ適當セザルモシテ其不當ナルヲ以テ其不當ノ廉ヲ審理アラシムコト乞フ

第十一條

近在窮民ハ開墾規則第二條ノ通貨銀飯米家作ノ御手當ヲ蒙リ一旦受作人トナリ自力出來次第御拂下願ヲ經テ地主トナリタキ志願ニテ開墾ニ着手セシ處御手當等ハ下渡ナキヲ以テ據ナク本村ノ財産ヲ賣却シ又ハ他借ナシ壹反ニ付金七圓五拾錢位モ相掛ケ又ハ其金額ニ應シタル筋力ヲ尽シ開墾セシニ成功ノ後ニ至リ壹反ニ付價銀金壹圓五拾錢宛下渡相成タレトモ未タ飯米家作ノ御手當ヲ受ケサルノミナラズ開墾入費モ十分ノ二ニ當ル金額壹反ニ付壹ヲ下渡アリタレト十分ノ八ハ窮民ノ出セシ資本ナレヲ以テ其實況ヲ審理アラシムコト乞フ

第十二條

千葉裁判所ニ於テ被告ノ申立ニハ東京ノ窮民二千五百戸九千餘人

ニテ開墾其他ノ失費高凡七拾萬圓餘ニ至レリト因テ葛飾郡豊四季
 村宇南組ト稱ラル四拾戸ノ者ノ救助ヲ蒙リタル金額ヲ計算スルニ
 平均壹戸ニ付金三拾圓未滿ナリ試ニ此割合ヲ以テ東京ノ窮民二千
 五百戸ニ算當スルニ七萬五千圓ニ上ラヌタトヒ其他ノ入費ヲ格外
 ニ見込タリトモ御貸下金貳拾萬圓ノ高ヲ越ユヘキ筈ナリ然ルニ七
 拾萬圓餘ノ申立ハ不相當ニシテ信シ難シ況ヤ御貸下金ト通算スレ
 ハ百萬圓餘ナルヲヤ果シテ實ナルモ冗費此ノ如クナルハ開墾規則
 前文中銘々一己ノ利欲ニ走ラス窮民授産ノ道相立候様注意可仕ト
 アル旨ニ對シ不條理ナルニ依リ實地精算ノ審理アラシメテ乞フ
 第十條 第十條 第十條 第十條 第十條 第十條 第十條 第十條 第十條 第十條
 手葉裁判所ノ判決第三條中ニ其土地ヲ管轄スル千葉縣廳ノ證明ス
 ル所ニ據レハ該地ハ會社ヘ附與セラレタルモノニテ全ク八郎右衛

門ノ私有地ト可相心得トアレトモ千葉縣廳ノ證明スルトノミニテ
 何年何月何ノ御役所ヨリ何等シ達書アリ何等ノ証ニ據リ八郎右衛
 門ノ私有地トナリタルトノ證據ヲ示シ窮民ノ承知ヲ經タルニテ
 サレハ千葉縣廳ノ證明ハ無証ト回質ト是下セラレシモノナルヤチ
 保シ難キニ依リ不明ノ判決ナリト思考ス
 第十四條 第十四條 第十四條 第十四條 第十四條 第十四條 第十四條 第十四條 第十四條 第十四條
 千葉裁判所ノ判文第二條中ニ被告ハ會社ヘ加テ致シタル筋ニ無之
 固ヨリ社外ノ小作人ニシテ其義務ヲ尽ス迄ノモノトアリ其社外ト
 レハ勿論ナレトモ開墾規則第二條開墾加入願出候者所置ノ事ト
 ル廉ニ依リ開墾ニ加入セシモノナレバ其義務ヲ尽スニ至テハ政府
 へ對シテハ尽スヘキノ義務アレトモ八郎右衛門ハ尽スヘキノ義務
 ナシ故ニ權限上不備ノ判決ナリト思考ス

第十五條

千葉裁判所ノ判決第三條中ニ窮民授産處分止ノ事ヲ付可否ノ論議ニハ關係無之トアルトモ窮民授産開墾規則ノ趣旨ヲ體認シ耕耘勞苦七八年ノ久シキヲ經開墾地ノ人民トナリタル者ニ於テ窮民授産處分上ノ可否ヲ論議セシテ誰カ之ヲ論議スルヲ得ンヤ然レトモ始ヨリ處分上ノ可否ヲ論議セシメラスハ八郎右衛門ニ於テ小作地引揚云々ト非理ノ訴ヲ爲スニ依リ止ムヲ得ス開墾規則ヲ援引シテ論争スルニ至リシノミ然ルニ八郎右衛門ノ主張スル所ハ開墾規則ニ抵觸スルノミナラス何年何月ヨリ八郎右衛門ノ私有地ト成ルカルトノ證據トスヘキ文書モナク又曾テ通知シタルトモナク讀聞カセタルトモナキ小作人取扱規則ヲ證據トシテ姑ク可否ヲ議論スル權利上一歩ヲ讓リ專ラ審問ニ對シ八郎右衛門ノ私有地トナリ

タル確証ヲ求メタルニ却テ此ヲ舍テ處分可否ノ論議ニ關係無之ト

判決セシレタルハ不明ノ判決時ヨリ思考スルハ公ニ對シテ其ノ

第十六條ニ依リテ審判官ノ職權ニ對シテ其ノ職權ニ對シテ

千葉裁判所ノ判決第三條全文ノ意ハ三井八郎右衛門ノ被告該窮

民ハ開墾規則ニ依ラザルニテ判決ナル歟若シ然ルトキハ第十條ニ

論及タル如ク開墾規則第三條ハ有名無實ナル者歟或ハ取消ルル

ルモノ歟然ラズシテ開墾規則第三條ニ依リタル窮民ハ處分止ノ

否ヲ論議スルノ權ヲ有スルハ至當ノ條理ナリトモ思考ス

第十七條ニ依リテ窮民ハ其ノ地ノ權利ニ對シテ其ノ地ノ權利

亦金佐倉牧場開墾地ニ舊來御用地ト唱テ野村村ノ地先進退牧馬

場等ヨリ窮民授産ノ爲メ壹萬三千町歩ヲ取ル年以内ハ開墾中

テ既ニ千葉縣管内ニ覽表ニテ開墾地反別別段記載シタル地種

シテ地所ノ名稱ニ依シテ野方無税ノ公有地ニ適當ヒリ又大藏省布
達地租改正施行規則第廿二則新開墾下年季中ノ分ハ其年季中無
税ノ積習相心得新開試作地反別何程ト相記無代價ノ券狀可相渡事
トアル廉開墾規則第一條中御下金ヲ以テ開墾仕一旦受作人ト相
成其入費ヲ十ヶ年内ニ返濟スル事ヲ以テ獨立農夫タルヘシトアル廉
ト多參照然レハ普通ノ新開墾民授産ノ爲メノ開墾モ道理止ニ於
テ異ナルコトヲ即チ鐵下年季中ノ新開地ニ十ヶ年限ノ拜借金ヲ負
スル筋ニ相當シ又証跡ニ就テ論スル事亦第一條第三條第三
條ニ記載セシ如ク開墾規則御主意ノ通りナリ然ルニ千葉裁判所ニ
於テ官立會社ノ社員タル八郎右衛門關係ノ地ハ八郎右衛門ノ私有
地ト裁判アリ中村初太郎吉田耕太郎關係ノ地ハ公有地ト裁判アリ
而シテ千葉縣廳ニ於テハ開墾地ハ會社ヘ附與セラレタルモノナリ

ト無證據ノ事ヲ申立テラレタリ又明治五年廢局廢社ノ節許多窮民ノ
内東京ノ窮民ノ一ニ開墾地五反五畝步宛下サレタルハ官有之處分
ナリ元來ニ種々開墾地ニ於テ其處分此方如ク異同アリト可解シ難
ク依テ官公民有地ニ區別ス審理セシテ開墾規則第三條以趣意判然
相立シ様審理セシテ以テ市ヲ乞フ事ト為ル事ニ當リ
判文ニ於テハ開墾規則第一條前文ニ照應スルニ依リ

本訴又明治八年九月廿五日下總國葛飾郡十餘並村石塚與兵衛ヲ控
訴并明治九年三月廿三日下總國葛飾郡豐四季村渡邊忠兵衛ノ控
訴ト其旨趣手續等都テ同様ナル旨申立テタリ然ルニ右石塚與兵衛
渡邊忠兵衛ノ控訴ハ何レモ初審裁判ヲ至當トシ判決ニ及ヒタリ因
テハ本訴ノ義同様筋ヲ相心得ベシ依テ訴狀下及戻候事

明治九年

三七〇二
三月

大審院ニ於テ

原告藤原公純而郎在衛門外三十三代入松本善五郎上告以要... 東京上等裁判所ノ判決第二條中國開墾規則... 時府下無籍無產ノ窮民救助ノ爲... 永々産業ヲ被爲授度思召ヨ...

位ノ手當ヲ以地所預リ或ハ家作迄貸渡何レモ開墾成就ノ上受作人... 同裁判所判決第二條中ニ全国立會社ナリ故ニ小作願書及ヒ小作証...

ラサル所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ如ク又テトヒ會社ハ官立ニ
 モセヨ民立ニモセヨ第一窮民授産ノ爲メ開墾局ノ設立アリ第二窮
 民授産開墾規則ヲ施行セラルルニ付會社ヲ結ハセラルル方法アリ
 第三小金原開墾被仰出候御規則而ノ通御局御支配小作人ニ被成下
 度云々開墾會社御役中様ト記シタル小作願書ヲ差出シタリ第四地
 稅御上納又ハ御役所ト記シタル小作証書ヲ差出タリ抑開墾ノ事業
 ハ政府特別ノ恩典ニ出テ其開墾地ハ往時御用地ト唱ヘタル牧馬場
 ナリシヲ自分ノ勞力ヲ以テ漸次良田ト爲シ七九年間現ニ其地ニ住
 居セリ左スレハ開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ又往
 古ヨリ土地ヲ開墾スルハ其地ハ開墾者ノ所有ト爲ル習慣ニ據ルモ
 小作願書小作証書ハ官廳ニ對シタルモノナルニ官廳ニ對シタル地
 ノ判決ハ不法ナリト思考ス

第三條

同裁判所ノ判決第二條中ニ自費開墾者ト賃錢取り小作人トハ開墾
 規則上其差別アリトアレトモ元來自分共ニ於テ自費開墾者ト申立
 タルコトハ開墾規則第二條近傍窮民ノ部分ト申立タルナリ然ルニ
 自費開墾者ト申立タル如ク判決アリシハ不法ナリ
 但開墾成功迄ノ入費ハ壹反ニ付金七圓五拾錢程モ相掛ルタルニ
 其賃錢トシテ下渡サレタルハ壹反ニ付金壹圓五拾錢ナリ左スレ
 ハ入費十分ノ二ハ下金アリタルトモ十分ノ八ハ自分ノ資金ト勞
 カトニ出タルモノナルニ東京上等裁判所ニ於テ其實際ヲ審理セ
 ラレサリシハ人民ノ損害ヲ保護セラレサル裁判ナルヲ以テ不條
 理ナリト思考ス

第四條

同裁判所ノ判決第二條中ニ原告人於テ貨錢ヲ受取リタル以上ハ決
 シテ自費開墾者ニアラス其自ラ云フ所ノ往々地主タルヲ得ヘキ目
 的ナリシトハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリト
 アリ其文意ヲ推スニ自分共ニ開墾規則第三條ニ依ルヲ得ヘカラサ
 ルトノ判決ナリ貨錢ヲ取ルト取ラサルトニ差別アルハ勿論ナレト
 モ然レトモ開墾規則第三條ニ賃銀飯米家作ノ手當ヲ以テ地所預リ
 受作人タルニキトアルニ據レハ賃銀ヲ受取ルトテ規則第三條
 ニ依ルニキモノナルニ規則第三條ニ依ルヲ得ヘカラサルトノ意ヲ
 以テ判決セラルレタリ不法ナリト論スルハ其旨ニ合ハズ然レドモ
 同裁判所ノ判決第三條中其小作金ヲ納ルコトヲ拒メタルハ元ト官有地
 ト心得小作セシニ圖ラヌモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ付其原因

ヲ知ラサレハ納メ難シト謂ト雖モ原告ニ於テ初メ小作人タラント
 ナ願出シヨク以來云々其所有主ノ官私ニ拘ラス被告ニ對シ小作人
 ノ義務ヲ尽スヘキハ當然ナリトモ所有主ノ官私ニ拘ラス被
 告ニ對シ小作人ノ義務ヲ尽スヘキハ當然ナリトモ驚愕ニ堪ヘザル
 ナリ何故ナレバ官有私有ハ別ニ明カニシテ後土地ヲ引渡スヘ
 キ理由アテハ其時被告人ニ對シ小作人ノ義務ヲ尽スヘキハ當然ナ
 リトモ只官私ニ拘ラス小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ判決
 ハ末法ナリト思考スル者ニ對シテハ其旨ニ合ハズ然レドモ
 同裁判所ノ判決第三條中ニ諸事被告ノ支配ヲ受來ル今モ仍ホ異ナ
 リトナシ云々且該地ヲ會社ニ附與セラレシトハ固ヨク官廳ノ處分
 ニ關スルコトニテ其當否ヲ被告ニ對シ申立ヘキ筋ニ非ストアレトモ

官廳ノ處分ニテ該地ヲ會社ニ附與セザレタルモノナラハ其處分ノ理由ヲ該地ニ住スル窮民ヘ公示スルニキハ今モ仍ホ諸事ヲ支配スル八郎右衛門ノ責任ヲ然ルニ其事理曖昧ニシテ土地ヲ引揚シテ欲スルニ依リ控訴狀第十五條末文ニ其當否ヲ辨シ事理ノ明了センコトヲ求メタルニ却テ其當否ヲ被告ヘ對シ申立ヘキ筋ニアラストノ判決ハ不法ナリト思考スルハ其處分ニ對シテ當然ノ事ナリト認ムルハ第七條新舊ノ入ノ權ノ小法ノ規定ヲ以テ之ヲ以テ本件ノ始末ハ明治三年六月開墾局ヨリ施行セテ以テ窮民授産開墾規則ニ基キ結社セシ開墾會社ノ社員三拾余人内三井八郎右衛門ノ代理人市岡晋一郎同社員中村初太郎吉田耕太郎三人ヨリ窮民ノ内自分共ノ部類セテ村三百三拾三人ニ對シ開墾地六八郎右衛門外二人ノ私有地ナル旨ヲ以テ小作地引揚ノ訴狀二十三件ヲ加村區裁

判所ヘ差出タリ因テ自分共ニ於テハ官有地受作人タル旨各自答辨セシ處其内八郎右衛門ヨリ石塚與兵衛ヘ對スル一件ノミ裁判アリ其他ハ千葉裁判所ヘ差廻サレ同所ニ於テ審理中中村初太郎吉田耕太郎等立澤甚五郎外三十一人ヘ對スル件々ハ原告ハ官有地進退人被告ハ官有地受作人タル旨ノ證書爲取換解訟セリ八郎右衛門ノ被告タル百九十壹人ノ件々ハ明治八年十月明治九年一月兩度ニ裁判申渡サレタリ依テ被告ノ内石塚與兵衛ハ明治八年九月東京上等裁判所ヘ控訴シ其他ハ明治九年三月二十三日同裁判所ヘ控訴シ同所ノ裁判ヲ受ケ耕地ヲ引渡シ地稅及ヒ訴訟入費之爲ニ身代限ヲ差出シ然リ政府特別ノ恩典ニ出ズル同種ノ窮民ニシテ其德澤ヲ蒙ルコトナラザルハ不公平ト思考スルハ其處分ニ對シテ當然ノ事ナリト認ムルハ第八條

被告八郎右衛門ニ於テ開墾地引揚請求ノ証據トスル小作証文ハ平民八郎右衛門ニ差入タルニアラスシテ政府ノ開墾事務ヲ擔當スル八郎右衛門ニ差入レタルナリ其事理ハ控訴狀第六條ヨリ第八條迄ニ具陳セシ如クナリ然ルニ八郎右衛門ニ於テハ自己ニ差入レタル証文ナリト其權限ヲ取リ違ヘ地所引揚ヲ訴出ル雖モ抑窮民授産ノ開墾ハ八郎右衛門ノ開墾ナル手政府特別ノ恩典ニ出タル開墾ナル手政府特別ノ恩典ニ出タル開墾局ヨリ窮民授産ノ開墾規則ヲ施行セラレ其規則ノ前文ニモ許多ノ窮民授産成功迄ハ中々不容易大事件トアリ左スレハ右小作証文ハ職務上ニテ八郎右衛門ニ受取タルモノナルニ其小作証文ヲ以テ小作地ヲ引揚シトスルハ權限外ノ請求ト思考スルハ開墾規則ノ前條々御審理ノ上原裁判ヲ破毀セラレシトテ乞フ

被告 三井八郎右衛門代人市岡晋一郎答辨ノ要領

答辨書ヲ分テ二章トシ第一章ハ爭訟ノ大体ニ就テ上告ノ不當ヲ辨解シ第二章ハ上告狀ニ就テ逐條答辨ス其答辨ニ付憑証トスル所ノ書類ハ今般答辨スル十二件トモ同一ニ付渡邊忠兵衛カ上告ニ對スル答辨書ニ添ヘ差出タリ其書目左ノ如シ

証據書類目錄

第一號

一千葉縣下ニアル三井八郎右衛門私有墾開地處分ニ付市岡晋一郎ニ委任狀

第二號甲印

一窮民授産開墾規則第壹卷

第二號乙印

一窮民授産開墾規則第二卷

第三號

一小作人取扱方規則

第四號甲印

一下總國開墾地ノ事ニ付東京府ヨリ千葉縣ニ回答書ヲ寫

第四號乙印

一東京府ヨリ下總國牧々開墾一件ニ付舊印幡縣ニ演說書中拔書

ヲ寫

第四號丙印

一民部官ヨリ屋作料下渡書及東京窮民無産者御處置大意

第四號丁印

一東京窮民授産仕法畧卷ノ一寫

第四號戊印

一窮民授産取扱方内則寫

第四號己印

一開墾事業顛末大意

第四號庚印

一下總開墾地ノ事ニ付千葉縣ヨリ加村區裁判所ニ回答書ノ寫

尙原告人關口市郎右衛門外三拾二人ニ對スル証據目錄左ノ如シ

第一號

一小作証文寫并千葉裁判所ノ裁判執行濟届書寫ニ調印ノ分壹

通

第二號

一三井組開墾方ニ宛タル反別取調ノ儀ニ付証文壹通

第三號

一三井組開墾方へ宛タル賃銀受取書五拾六通

第四號

一解訟後入費賞受証文壹通

第五號

一小作金日延願証文壹通

第六號

一地券証四拾通

第一章

第一條

原告人共訴フル處ノ要旨タルヤ下總國牧々開墾仰出サレシヨリ原告人共ハ開墾ニ從事シ往々地主タルヘキ目約ナリシニ後ニ該地ハ

三井八郎右衛門ノ私有地タリトノ事ヲ聞キ目的相違スルノミナラズ根元該地ハ原告人共ニ於テ地主トナルヲ得ヘキ權利アリテ三井八郎右衛門ハ之ヲ私有スヘキ理由ナシト思ヘルモノ、如シ是レ原告人共ハ開墾著手ノ原因ヲ知ラサルニヨリ此ノ妄想ヲ起セシナラシ抑開墾ノ舉タル其原因ハ專ラ東京ニ在ル無籍無産ノ窮民ヲシテ永ク産業ニ就カシムルノ恩典ニ出シモノナリ原告人共ノ如キハ開墾ノ舉之レヲキ前ヨリ該地ニ鄰接シタル高田村ニ住居シ歴然タル在籍有産ノ農夫ニテ就中増田次郎右衛門關口市郎右衛門張ケ谷彌五兵衛ハ當時ニ在テハ組頭ヲモ勤メシ程ノ者ニシテ決シテ窮民ニアラス故ニ其初發開墾著手ノ際ニ於テ目的トセシ所ノ窮民部分トハ全ク性質ヲ異ニスルモノナリ依テ他ノ窮民ト一般ノ恩典ヲ蒙ルルヘキ理ナシ

第三條

原告人共其素在窮民ニアラヌ又開墾規則中ニ所謂力民ナルモシ、
 部分ニ至ラズ所謂力民ニ其力ヲ勞セシガ爲メニ別ニ金穀以酬ヲ
 得ルニ依リ即チ其力ヲ勞セシ地面ヲ有スルノ酬ヲ得ヘキ理アル
 然ルニ原告人共之如キハ各開墾賃料ヲ受取ルルモ以テ已ニ
 賃料ヲ得又累々ニ其地ヲ得ル之理アラズ然ラズ則之開墾規則
 中ニ所謂牧々近在窮民部分ト看做サ、元ヲ得ス而シテ近在窮民ナル
 モ以テ幾坪ノ地ヲ開墾何百文ノ賃料ヲ定メ開墾成就シ上ニ請作
 人々ニ之ヲ條約ヲ以テ生産ヲ立メシトシ明文アリ故ニ原告人共之
 如キハ之ヲ規則上ニ以テ論スルモ條理上ニ以テ論スルモ共ニ請作人々
 ルニ至リ判然タルモ之ニ到底地主トナルヲ得テササルナリ

第三條

原告人共ハ始メテ該地開墾ニ着手セシトキハ官有地ニシテ開墾會
 社ハ官立ノモノト思ヘリト申立タリ然ルニ其小作証書宛名ハ三井
 組開墾方御掛衆中ト書シ且其冒頭ニ於テ貴所様御持畑ノ内小作下
 請任下掲載セリ又去ル明治六年早損ニ付小作稅減額ノ義ヲ小作村
 々拾五ヶ村ヨリ願出タル節其總代人ヨリ三井八郎右衛門代市岡晋
 一郎へ宛テタル一札ヲ差出タリ加之其後原告人等ハ高田村秋山彌
 平次等ニ同意シ地所買取并賃銀受取方ノ義ヲ千葉裁判所へ出訴ノ
 末願下ケテナセシトキ貴殿御持地ノ内へ出小作罷在候ニ付テハ約
 定ノ都度々々書面差入確定致シ居候ヲ心得違致シ云々ノ一札ヲ差
 出シタリ是レ原告人共ハ固ヨリ三井八郎右衛門ノ私有地タルヲ
 信認シ又其小作人タルトモ甘心セシ明証ニシテ官有地ト認メタル
 ニアラサルヲ明瞭ナリ

第四條

前條々ニ陳述スル如クナルヲ以テ原告人共ハ地主タルヲ得ヘキ理
ナキヲ明カナリ而シテ該地ハ三井八郎右衛門ノ私有地タルノ証ハ
第一舊印幡縣廳ヨリ下付セラレタル地券証アリ其他之ヲ私有スヘ
キ理由アル所以ハ豊四季村渡邊忠兵衛ノ上告狀ニ對シ答辨セシ通
リナリ

第二章

第一條

上告狀第一條ニ對スル答辨ノ旨意ハ前文第二章第一條中ニ開陳セ
ル如シ故ニ東京上等裁判所ノ判決ハ不法ニアラスト思考ス
第二條 上告狀第二條ノ申立ハ原告人共ヨリ差出シタル小作証文ノ體面ヲ

第三條

見レハ其官廳ニ對スルモノニアラサルヲハ判然クハ故ニ東京上等
裁判所ノ判決ハ不法ニアラスト思考ス
上告狀第三條ノ申立ハ原告人共ガ東京上等裁判所ニ差出シタル控
訴狀ヲ閱讀セシヲナケレハ果シテ自費開墾者ト申立タルコト
シヤ否ヲ識別セス故ニ之カ答辨ヲナスコト能ハサルナリ然レトモ原
告人共カ今日申立ル所ノ要點ハ開墾規則第二條近傍窮民ノ部分ナ
リト云フニ在リ而シテ東京上等裁判所ノ判決第三條中ニ規則第三
條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアレハ原告人共カ今日
申立ル如ク判決アリシモノヨシテ此判決ヲ不法トスル理由ヲ被見
シ得サルナリ

上告狀第三條但書ニ開墾成功マテノ入費云々ト申立シトモ實際

夫レ程ノ入費ヲ掛ケタルトハ之レナシト思量セリ今姑ク原告人共ノ言フ處ニ從フモ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ已ニ近傍窮民ノ部分タルヲ知ル上ハ賃錢ノ少キト勞力ヲ用井シトハ素ヨリ得心ノ上取掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スル筋無之トアリ此判決ヲ見レハ東京上等裁判所ニ於テ入費ノ實際ヲ審理セラルヘキ道理ナキトフ會得スルニ足ルヘシ

第四條

上告狀第四條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決第二條中ニ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアリ此ノ如キ明文アル上ハ東京上等裁判所ニ於テ原告ハ開墾規則第二條ニ依ルヲ得ヘカラスト判決セラレタルニアラサルコト明瞭ナリ

第五條

上告狀第五條ノ申立ハ仮令其地ハ官有ナルモ私有ナルモ小作人タルノ分限ヲ以テ小作金ヲ差拒ム理アルコトナシ況ヤ原告人共ハ初メヨリ三井八郎右衛門ノ私有地タルヲ識認セシモノナルコトハ小作証書ニ於テ明瞭ナリ

第六條

上告狀第六條ノ申立ハ固ヨリ三井八郎右衛門ハ官吏ニアラサレハ該地ヲ會社ニ附與セラレタルノ當否ヲ論スルノ權ナシ又原告人共ニ向テ之ヲ説明スルノ責任モナシ故ニ右判決ハ不法ニアラスト思考ス

第七條

上告狀第七條ノ申立ハ八郎右衛門ノ關係セシトニアラス原告人共ニ於テモ他人ノ事ヲ援引シ以テ不公平ト云フヘキ理之レナシ

第八條

上告狀第八條ノ申立ハ前文第一章第三條ノ辨解ニテ明瞭ナリ

第一條

上告狀第一條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決ヲ了解シ得サルニ出
テタルモノトス何トナレハ東京上等裁判所ノ判決第一條中ニ開墾
規則ニ因ル時ハ該會社ハ當時府下無籍無産ノ窮民救助ノ爲メトア
リテ開墾地近傍窮民救助ノ事ヲ舉ゲサリシハ開墾會社ノ民立タル
ヲ辨明スル爲メ該會社ハ開墾規則ニ因リテ成リ立チタルモノニテ
其成リ立チタル原因ハ首下シテ東京府下ノ窮民ヲ救助スルニ出テ
タルヲ辨スルニ在レハナリ而シテ其首下スル所ノ東京府下ノ窮
民ヲ救助スルニ出テタル証ハ原告引証スル所ノ開墾規則前文中ニ

就中東京ノ儀ハ非常ノ御變革被爲在候ヨリ俄ニ無籍ト相成候者不
少云々右等ノ者共去始メ其外窮民ニ至迄トアリ又原告引証スル所
ノ開墾規則第三條ニ開墾地近傍在籍有産ノ窮民ト東京府下ノ無籍
無産ノ窮民トハ差別アルコトヲ記シ同規則第九條ニモ今般ノ開墾ハ
無籍ノ浮浪士ヲ始メ其外農工商トアルヲ以テ見ルヘシ故ニ東京上
等裁判所ハ救助ノ首下スル所ヲ舉ゲタル迄ニテ開墾地近傍窮民救
助ノ道ハ立テ置カレサル朝旨ナリト判決セシメアラス而シテ原告
ニ於テ相分リ難シト申立ル近傍窮民救助ノ事ハ開墾規則第三條ニ
明記シアル上ハ東京上等裁判所カ此判文ニ於テ開墾地近傍窮民ノ
コトヲ舉ゲサリシトテ少シモ上告人ノ權利ニ妨害ナキニ因リ其舉ゲ
サリシヲ以テ不法ヲ裁判トスルヲ得云々

第二條

上告狀第二條ノ申立ハ前文第一章第三條ノ辨解ニテ明瞭ナリ

上告狀第二條ノ申立ニ付小作願書小作証書ノ果シテ官廳ニ對スル
 モノナルヤ否ヲ判決スルニハ先ツ其小作願書ヲ受取リタル開墾會
 社ハ官立ナル乎民立ナル乎小作証書ヲ受取リタル三井組開墾方ハ
 何等ノ性質ヨリ成リ立チタルモノナルカヲ定メサレハガラス而シ
 テ原告カ會社ヲ官立ナリトスル所以ハ控訴狀第一條ニ陳述セシ如
 シト申立ルニ依リ控訴狀第一條ヲ按スルニ其引証スル所三箇條ナ
 リトス而シテ其第一箇條ハ開墾規則前文ニ會社ヲ爲結トアル是ナ
 リ然ルニ會社ヲ爲結トアル前後ノ文ニハ許多ノ窮民授産成功迄ハ
 中々不容易大事件ニ付政府ノ御世話而已ニテハ御手ノ十分ニ難被
 爲届御場合モ可有之依テハ今般東京始メ其外開墾ニ加入致度志願
 ノ者ニ會社ヲ爲結自分金穀ヲ以テ開墾致度者ハ富民ノ部ニ入レ又
 ハ志ハ有之候トモ自力無之者ハ力民ノ部ニ入レ富民力民相互ニ助

ケ合云々トアリ此文意ヲ解釋スレハ窮民授産ノ事ハ當時政府ノ世
 話ノ具ニテハ行届キ難キ場合モアルニ依リ志願ノ富民力民ニ會社
 ヲ結ハセ開墾ニ從事シ窮民授産ノ道ヲ立テ置タルトシテ故ニ
 志願ノ者ト云ヒ會社ヲ爲結ト云ヒ自分金穀ヲ以テ開墾致度者ト云
 ヒ志ハ有之候トモ自力無之者ト云ヒ歴來皆會社ヲ民立タルト云
 フモノニシテ毫モ會社ヲ官立タルト云フノ文意ナラズ然レハ則原
 告ノ所謂會社ヲ爲結トアルハ却テ會社ヲ民立タルヲ証スルニ足ル
 モノニシテ會社ノ官立タルヲ証ト爲ス得ヌ又第二箇條第三箇條
 ノ引証ハ開墾規則第八條ニ會社役員撰舉ノ事云々役員申付答ニ
 付云々會社一般決議ノ上可申立事トアリ同規則第十條ニ開墾ヲ御
 趣意ヲ拜承致シ願ハ或ハ有志ノ輩會社ノ者ハ内談等有之節ハ其旨
 委細書取ヲ以當局ニ可届出等万一心得違致シ私ニ願書預リ又然如

何敷税並唱竊金銀ヲ欺取云々ト亦ハ是テ原告ハ會社ノ社員ガ
 右箇條ノ如ク開墾局ノ命令ヲ受ケルニ依リ會社ハ官立証書ヲ
 付シテモ抑開墾會社ノ成立ヲタルヤ政府ニ於テ先ツ開墾局ヲ
 置キ開墾規則ヲ設ケ其規則ニ據テ富民力民ニ會社ヲ結ビセシムル
 モノナレハ會社カ此規則ニ賴リテ就業スルヤハ結社ノ初ヨリ定メ
 タルモノナリ是故ニ開墾局カ右二條ノ如ク會社ノ事務ニ干與スル
 所以ノ者ハ所謂許多ノ窮民ヲシテ授産セシムルハ容易ナラサル大
 事件ナルヲ以テ之ニ從事スルモノヲ監護スルニ出ルモツタルハ
 明瞭ナリトス左ニ於テハ會社カ開墾局ノ命令ヲ受ケルハ固ヨリ當然
 ノ事ニシテ其命令ヲ受ケ及シテ會社ハ官立ナリトシテ証明ト爲ス
 得ス又原告ニ於テハ亦モ會社ハ官立ニモセヨ民立ニモセヨ小作願
 書小作証書ハ官廳ニ對スルモノナリト申立ントモ會社ハ官立タル

手民立タル乎ヲ問ハスシテ獨リ小作願書小作証書ノミニ依リ官廳
 ニ對スルモノト爲スヲ得サル者トス原告ハ第一窮民授産ノ爲メ開
 墾局ノ設立アリ第二窮民授産開墾規則ヲ施行セラルハニ付會社ヲ
 結ハセラルハ之ノ方法アリト云フ雖モ開墾局ニテ規則ヲ立テ會社
 ヲ爲結タルモノナレハ開墾局ト會社トハ判然タル區別アリトス而
 シテ其會社ヲ爲結トアルハ官ヨリ人民ニ指揮シテ會社ヲ結ハシメ
 シヨニテ即チ會社ノ民立タルノ証ニシテ官立タルノ証ト爲スコトヲ
 得ス第三ハ小作願書ニ御局御支配小作人開墾會社御役人申様ト記
 シタリト云フト雖モ前ニ辨明セシ如ク民立ナル會社ト差出シタル
 小作願書ハ之ヲ官廳ニ對スルモノト爲スヲ得ス第四ハ小作証書ニ
 地稅御上納御役所ト記シタリト云フト雖モ其名宛ハ會社中ノ一人
 ナル三井組開墾方ニテ其証書ノ首ニ貴所様御持畑ノ内小作下請仕

云々ト記シ又末文ニ御會社ノ御規則屹度相守可申トアルニ由レハ
 固ヨリ官廳ニ對セルモノトナスヘカラス是ニ由テ之ヲ觀レハ原告
 カ所謂開墾規則ニ據ルモ窮民授産ノ趣旨ニ對スルモ會社ハ民立ニ
 シテ官立ニアラサル上ハ小作願書小作証書ハ官廳ニ對スルモノニ
 アラストス又往古ヨリ土地ヲ開墾スレハ其地ハ開墾者ノ所有ト爲
 ル習慣ト申立レトモ右ハ他人ノ給與ニ依ラス獨立シテ開墾セシ者
 ノ事ニシテ此案件ト其性質ヲ異ニセシ者ナリトス右ノ如クナルヲ
 以テ東京上等裁判所カ會社ノ民立タルヲ辨明シ小作願書及ヒ小
 作証書ニ會社役人等ノ稱小作上納等ノ辭ヲ用サタリトテ之ヲ官廳
 ニ對スルモノト爲スヘカラスト判決シタルハ不法ノ裁判ニアラス
 トス

第三條

上告狀第三條ノ申立ニ依リ原告ハ東京上等裁判所ニ於テ自費開墾
 者ト申立タルコトナキヤ否ヲ審査スルニ明治九年六月九日同裁判所
 ニ於テ原告ノ口供第一項ニ下總國葛飾郡十餘二村石塚興兵衛并同
 郡豐四季村渡邊忠兵衛控訴ト都テ同様ナリトアリ依テ明治九年五
 月二十四日忠兵衛カ口供ヲ檢スルニ自分金穀ヲ以テ開墾致シ候者
 ハ往々該地ノ所有主タルヲ得ヘキ旨承リ云々自費ヲ以テ開墾致シ
 云々自分ノ如キ自費開墾セシ者ハ云々トアレハ自費開墾者ト申立
 タルコト明カナリ故ニ東京上等裁判所ハ自費開墾者ト賃錢取小作人
 トハ開墾規則上其差別アリ而シテ原告人於テ賃錢ヲ受取リタル以
 上ハ決シテ自費開墾者ノ部分ニテラスト判決セシモノナレハ不法
 ノ裁判ニアラストス

上告狀第三條但書ヲ申立ヲ審理スルニ原告ハ開墾規則第三條ニ

アル近傍窮民ノ部中タルコト異論ナキ本條ノ申立ニ因テ明瞭ナリ既ニ近傍窮民ノ部中タルニ異論ナキ上ハ東京上等裁判所カ入費ノ實際ヲ審理セサリシテ不條理ト爲スヲ得ス何トナレハ開墾地近傍窮民處置ノ事ハ開墾規則第二條ニ明文アレハ此條ニ依テ處置ヲ受クヘキモノニテ固ヨリ入費ノ實際ヲ審理スルヲ要セサレハナリ故ニ東京上等裁判所ニ於テ已ニ近傍窮民ノ部分タルヲ知レル上ハ賃錢ノ少キト勞力ヲ用非シトハ素ヨリ得心ノ上取掛リシモノニテ夫カ爲メ別段ノ權利ヲ生スル筋無之ト判決セザルモノナルハ條理ニ適シタル裁判ナリトス

第四條 原告ハ東京上等裁判所ノ判決ニ不服シテ上告スルニ依リテ上告狀第四條ノ申立ハ東京上等裁判所ノ判決ヲ誤解セシモノトナレハ何トナレハ判文第二條中ニ原告人ニ於テ賃錢ヲ受取タル以上ハ決

テ自費開墾者ニアラス其自ラ言フ處ノ往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシトハ規則第二條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリトアルハ原告カ自費開墾者ナリト申立ニ對シ自費開墾者ナルハ賃錢ヲ受取ルニキ理由ナシ既ニ賃錢ヲ受取ル上ハ自費開墾者ニアラズ又自費開墾者ナルハ初ニ地主タルニ權利有スルモノナレハ往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシト言フニキ理由ナシ既ニ往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシト言フ上ハ是亦自費開墾者ナリトノ申立ニ適當セズ畢竟原告ニ於テ賃錢ヲ受取ルニ及リト云セ又往々地主タルヲ得ヘキ目的ナリシト云フハ規則第三條近傍窮民ノ部分ニ就テ論スルモノナリト意ニテ原告ハ規則第三條ニ依ルヲ得ヘカシテト判決セザラサルノモナラス即チ規則第二條ニ依ルヘキ申立ナリト判決セシナリ故ニ自己ノ誤解ヲ以テ此裁判ヲ不法トスルナ

得及、併合せしむるもの旨は、義務を以て流産時手取金に
 第五條の申立に付東京上等裁判所より判決第三條中ニ所有主
 の官私ニ拘限スル被告ノ對シ小作人ノ義務ヲ盡スルハ當然云々ト
 アルヲ審按スルニ此判決ハ原告ニ於テ小作金ヲ納ルルヲ拒ムルハ
 元官有地ト心得小作セシニ圖ラスモ三井組ノ所有地トナリシ趣ニ
 付其原因ヲ知ラザレバ納メ難シト申立ニ對スルモ該小作金
 ナ納ルルノ義務ハ所有主ノ官私ニ因テ之ヲ納ムルト納メサルト
 區別ヲ生スルモノニアラズ故ニ原告ニ於テ小作人タルノ旨願出
 小作証書ヲ差入タル上ハ該地以官有タル旨私有タル旨論テ其
 小作人タル旨明白ナリ且小作人タル旨論テ其小作証書ノ名宛人即
 チ被告人ニ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當然ナリトノ意ナリト

ス然ルニ原告ニ於テハ官有私有ノ別ヲ明カニシテ而シテ後土地ヲ
 引渡スヘキ理由アラハ其時被告ノ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ
 當然ナリト云フト雖モ該地ノ官有タル旨私有タル旨ハ原告ニ於テ
 論スヘキ事ニアラス何トナレハ原告ハ初メヨリ小作証書ヲ被告ニ
 差入被告ノ支配ヲ受ケ來ルモノナレハ其小作人タル旨ノ契約ヲ履行
 スヘキモノナレハナリ然ルニ其契約ニ背キテ小作金ヲ差出ズナ
 拒ムニ依リ小作地引揚ヲ訴ヘラレタルモノナレハ原告カ所謂地所
 ヲ引渡スヘキ理由ハ判然著明ナリトス故ニ東京上等裁判所ニ於テ
 其所有主ノ官私ニ拘ラス被告ノ對シ小作人ノ義務ヲ盡スヘキハ當
 然ナルニ之ヲ差拒メルヨリシテ地所ヲ引揚シトスルハ証書上ニ對
 シ不當トスヘカラスト判決シタルハ適當ノ裁判ナリトス

第六條

上告狀第六條ノ申立ヲ審理スルニ被告ニ於テ地所ヲ引揚ントスルハ原告カ小作証書ヲ差入ナカシ小作人タルノ義務ヲ盡サ、ルニ出テ其事理ノ明瞭ニシテ東京上等裁判所ノ判決ノ不法ニアラサルコトハ已ニ第五條ニ辨明セシ如シ然ルニ原告ハ控訴狀第十三條及ヒ第十五條ノ末文ニ於テ却テ被告カ地所ヲ得タル確証ヲ知リ得ルコトヲ求メタルノミナラス控訴狀第一條同第三條同第十五條同第十六條ニ於テハ該地處分上ノ事ニ論及セリ抑原告ハ初ヨリ被告へ小作証書ヲ差入小作人トナリタルモノナレハ小作人ニシテ地主カ地所ヲ得タル理由ヲ知リ得ント求ムヘキ權利アルコトナシ且該地ヲ會社へ附與セラレタルハ官廳ノ處分ニ係ルモノナレハ民立會社ノ社員ナル被告ニ於テハ官廳ノ處分ニ付其處分ノ理由ヲ説明スルノ責任ナキモノトス故ニ東京上等裁判所ハ判文第三條ノ結尾ニ於テ該地ノ

會社へ附與セラレシコトハ固ヨリ官廳ノ處分ニ關スルコトニテ其當否ヲ被告へ對シ申立ヘキ筋ニアラスト判決セシモノニシテ不法ノ裁判ニアラストス

第七條

上告狀第七條第八條ハ東京上等裁判所ノ裁判ニ對スル申立ニアラサルヲ以テ大審院ニ於テ辨明ヲ與フルノ限ニ在ラス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ大審院ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第七拾八號

○質流地受戻一件上告ノ判文 明治十年七月四日上告明
治十一年五月廿八日申渡

原告

神奈川縣第二大區一小

區武藏國橘樹郡程ヶ谷

町平民

清宮與市

右代人

同村平民

金子泰吉

被告

神奈川縣第二大區一小

區武藏國橘樹郡程ヶ谷

町平民

加藤勘次郎

東京上等裁判所ノ判文

質地取戻ノ訴横濱裁判所ノ裁判不服ノ趣ヲ以テ及控訴次第遂審理處

原告(加藤勘次郎)訴フル趣ハ原告祖父喜八ノ節所持地字後谷口上田三筆合四反九步字寺下ニテ下畑七畝二十步右反別都合四反七畝二十九步ヲ以テ被告清宮與市方へ質地ニ相渡シ金七十兩借受年季ノ儀ハ去ル天保十一子年ヨリ巳年迄五ケ年期ニテ期明後ハ金子有合次第受戻スヘキ契約ニ付該地受戻シ度及掛合處被告方返地差拒ニ不埒明無余儀被告方ヨリ証文寫取
本文質地証文寫左ノ如シ

相渡申有合質地証文之事

一上田壹反壹畝壹步 字後谷

一同七畝二十八步 同所

一同二反壹畝步 同所

合反別四反九步

一下畑七畝二十步

内

二十步

丑年山崩

右ハ程々谷町下分御水帳前書名前分數年所持致候處追々御年貢入用等ニ差支組合親類相談ノ上當丑年ヨリ巳年迄五ヶ年季有合質物相渡置金七拾兩唯今不殘體ニ受取申處實正ニ御座候然ル上ハ御年貢諸役入用等其許ニテ御勤書面ノ地所々持被成且又年季明元金七拾兩返濟申候ハ、質物之地所無相違御返シ可給候若其節金子調達致兼返濟不申候ハ、幾年茂在合致候間重而金子相調勝手次第請返候迄此証文ヲ以何ヶ年茂所持可被成候勿論御年貢未進御拜借等無之外ハ書入質物等ニ致置不申候右地所ニ付組合親類ハ不申及外ヨリ故障申者一切無御座候万一六ヶ敷儀申者有

之候ハ、我等并加判之者何方迄モ罷出早速辨明貴殿ハ少茂御苦勞相掛間敷爲後日未有合質物証文依而如件

質地主

天保十一年子ノ十一月

喜八印

組合

三郎印

親類

利兵衛印

興市殿

前書通相違無之ニ付與印致置候也

名主

清兵衛印

年寄

四郎

衛印

同

九左衛門印

証據トシテ明治九年八月九日初審裁判所へ出訴セシニ流地相成タル故可受戻之權利アラサル旨判決セラレ不服ナリ右ハ固ヨリ金子有合次第幾年相立トモ可受戻ノ約定ナレハ無年期ノ質地ニ付明治五年地券發行ノ際原告ニ於テ地券受度旨戸長役場へ願出タルニ質地ハ一般質取主ニテ可願受ノ筋ナリト戸長ヨリ説諭ヲ受ケ不都合モ有之間敷ト相心得其儘差置タル故被告方ニテ地券下調帳へ調印等致セシ由ナレトモ地券ハ未ダ下付不相成筈ナリ況ンヤ明治六年第十八號ノ布告ニ基キ証書可相改ノ處無其儀被告方所持スル上ハ

証書面并ニ舊名主方ニアル証文留記ニ據リ原告ニ於テ該地可受戻之權利有之モノナリ又今般被告方ヨリ差出セシ程ヲ谷宿百姓五人組帳ト題スル舊幕府規定七十三條ノ儀ニ據リ原告ノ主張ニ依リ本文舊幕府規定書七十三條中質地條目寫左ノ如シ

一享保元中年以來年季明候質地ハ年季明次十ヶ年過訴出候ハ御取上ケ無之并金子有合次第可受返旨証文ニ有之質地ハ質入ノ年ヨリ十ヶ年過訴出候ハ御取上ケ無之旨被仰渡奉畏候事

原告ニ於テ壹圓不相心得モ以テ尙小前店借五人組帳ハ銘々捺印有之ト雖モ右七十三條ノ帳簿ニ聯合スルモノニテラス全ク印鑑帳ト唱ルル別種類ナリ尤程ヶ谷驛役場ニ從前備ヘ有之高入帳ハ總テ地所質入ノ節直ニ質取主ノ持高ニ結込ヘキ習慣ニ付被告名前ニ相成タルハ當然ナリ若シ質流地ナレバ所謂涙々金ト唱ヘ多少金

員受取得テ更ニ流地証文交付可致等ナレト原告ニ於テハ流地致セシテ曾テ無之故借用金返辨シ該地受戻度旨申立タリ
 被告(清宮與市)答フル趣ハ本訴ノ地所ハ被告先代亡父與市存生中原告方祖父喜八ヨリ質地ニ取置天保十一子年ヨリ已年迄五ケ年期ノ約定ヲ以金七拾兩貸渡其後年期明不受戻シテ流地ニ相成タル故舊名主へ届ケ置タル由亡父與市ヨリ承知罷在尤質取証書ハ紛失シテ見當ラスト雖モ舊名主方証文留ニ記載有之且流地証書不取置次第ハ程ケ谷驛一般ノ習慣ニテ百姓五人組受書帳ヲ唱テ舊幕府ノ規定七十三ケ條記載之内享保元申年以來質地六ケ年季明十ケ年過去訴出シハ取上無之並ニ金子有合次第可受返趣ヲ証文ハ質入ノ年ヨリ十ケ年過テ訴出レハ取上無之旨被仰渡云々トアリ舊名主役場ニ於テ明治二三年ノ頃迄屢々爲讀聞ノ上則帳尾ニ名主年寄五人組連ノ一

札差上云々ト記載ノ通別冊地借店借五人組帳へ一同承知ノ受印致シ置タル故流地証文交付致サス唯流地相成タル節役場へ申出ル而巳ナリ又去ル安政年中舊幕府徳川氏上洛ノ砌驛方諸夫錢等多分ニ相嵩ニ田地作徳米ヲ以難相支故地主一同難澁故名主年寄地主共協議ノ上田地小作預米壹俵ニ付五升増畑地モ之ニ準スヘシト取極メタルニ小作人共騒立テ無餘儀質地年季明及ヒ金子有合次第可受戻之地所ハ悉皆受戻サセタルニ當時不受戻分ハ總テ流地ニ相成タリ然リ而シテ明治五年地券發行ノ際各自所有地取調書上タル節原告ヨリ該訴ノ地所ニ付何等ノ掛合モアラスシテ明治八年實地丈量ノ爲メ縣官派出ニ相成檢査ノ砌モ該訴ノ地所ハ被告與市ノ名義ヲ以テ調査ヲ受タリ尤地券ハ未タ下付不相成ト雖モ明治六年第五十一號布告及ヒ明治六年第四十六號司法省ノ布達モ有之ノミナラス既

ニ舊幕府ノ成規ニ據ルモ原告方該地受戻ノ權利ヲ失フタルモノナ
 リト申立タリ依テ判決スル左ノ如シ
 被告ニ於テ證據トスル程ケ谷宿百姓五人組帳ニ舊幕府規定七十三
 ケ條記載ノ内質地ハ年季明十ケ年過訴出レハ取上ケ無之旨被仰渡
 云々トアリ且帳尾ニ爲其名主年寄五人組連判一札差上云々ト有之
 則チ別冊地借店借五人組帳ヘ一同受印致シ置タルヲ以テ流地証文
 交付致サスト被告申立レトモ右百姓五人組受書帳ト唱フル舊幕府
 規定云々ハ原告方ノ押印モ無之原告方一圓不相心得旨申立又別冊
 地借店借五人組帳ハ原告方ノ名印有之ト雖モ右百姓五人組受書帳
 ト聯合スルモノニアラス全ク印鑑帳ト唱フル別種類ノモノナリト
 原告申立ル故夫々遂照査處各帳簿ノ表記モ異ナル上ハ其實關涉セ
 シモノト看認ムルニ由ナシ然ラハ被告ニ於テ舊幕府ノ規定ニ因リ

既ニ流地相成タルトノ申分ハ不相立其他被告ニ於テ流地相成タル
 トノ確証モアラス而シテ舊名主方証文留記ニ有合質地ト判然之ア
 ル上ハ流地ニ不相成モノナリ然ラハ則チ明治六年第十八號布告以
 來地所質入書入ノ規則ニ從ハサルヲ得ザルモノトス是以當今地所
 質入書入ノ規則ニ抵觸スレハ質地ノ効ナキモノニ付原告申立通リ
 被告ニ於テ返地可致事
 明治十年五月十七日

大審院ニ於テ

原告 清宮與市代人金子泰吉上告ノ要旨

明治十年五月十七日東京上等裁判所ニ於テ言渡サレタル裁判ハ不
 法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ請フ條件如左

第一條

判決文中夫々遂照査處各帳簿ノ表記モ異ナル上ハ其實關涉セシ

ト看認ルニ由ナシ然ラハ被告(當今原告)ニ於テ舊幕府ノ規定ニ因リ既ニ流地相成タルトノ申分ハ不相立其他流地相成タルトノ確証モアラストアレトモ舊幕府規定七十三條ハ押印ノ有無ニ拘ハラズ當時人民ニ於テ遵守シタルハ論ヲ俟タズ且ツ該規定書中質流地條目ノ文意ヲ見レハ必ラス本訴ニ關涉シタルモノニシテ該質地ノ流地タルハ判然ナリ況ンヤ明治六年第五十一号公布但書ニ壬申二月十五日前ノ質地ハ年季明ケ受戻サル、トキハ從前ノ通り流地タルヘシトアルヲヤ然ルニ當時ノ成規タル舊幕府ノ規定條目ヲ以テ其實關涉セサルモノトシ他ニ流地ノ確証モアラスト判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

第二條

判決文中舊名主方留記ニ有合質地ト判然有之上ハ未タ流地ニ不相

成モノナリトアレトモ舊名主方留記ニ依ル時ハ却テ流地ノ証跡明白ナレハ之ヲ反對ノ裁判ト言ハサルヲ得ス何トナレハ該證書中子ヨリ巳年迄五ヶ年季正金七十兩有合質地ト有期ノ明文ヲ記載シアレハナリ然ルニ子ヨリ巳年迄及ヒ五ヶ年季等ノ有期ノ文字ヲ除去シ單ニ有合質地ノ四字ヲ截取シ被告(控訴原告)方ニ於テ縱ニ作爲セシ証書寫ニ憑據シ無期ノ質地ナレハ流地ニアラスト判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

第三條

判決文中明治六年第十八號布告以來地所質入書入ノ規則ニ從ハサルヲ得サルモノトアレトモ既ニ年季約定ノ在ルアリテ當時流地決定ノ安堵ヲ得シモノナレハ殊更ニ該公布ニ從ヒ質地ノ手順ヲ爲ス可キニ非ラズ然ルニ當今質入書入ノ規則ニ抵觸スレハ質地

効ナキモノ付原告(加藤勘次郎)申立通リ被告(清宮興市)ニ於テ返地可致事ヲ判定セラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

第四條

文久度田畑反別壹筆限リ持主書上帳及ヒ地券御發行ノ際各自所有地書上帳等ハ各人民ノ所有地ヲ明記セル帳簿ナルヲ以テ東京上等裁判所ニ呈供シ置タルニ當テ當該判事檢閲ノ証印アリテ而シテ判決文中其辨明無キハ聽斷ノ定規ニ違ヘルモノト思考ス

被告(加藤勘次郎)答辨ノ要旨

第一條

原告(控訴被告)ニ於テ舊幕府規定七十三條ハ五人組帳ノ基本ニシテ一般ノ成規ナリトシ東京上等裁判所判決文中夫々遂照査處各帳簿ノ表記モ異ナル上ハ其實關涉セシ者ト看認ルニ由ナシ然ラハ被

告(今回原告)ニ於テ舊幕府ノ規定ニ依リ既ニ流地相成タルトノ申分不相立トハ不法ナリト云

雖トモ原告(清宮興市)自認スル舊幕府規定七十三條ハ帳簿ハ保土ケ谷驛一般ノ押印無之上ニ反古ナル者ナリ且ツ五人組帳簿ヲ聯合ス可キ謂ハシアル中若シ然ラハ該規定書ヲ以テ流地ノ証ト申立ルハ不條理ナリ

第三條

原告ニ於テ明治五年地券發行ノ際各自ノ所有地斷然取極リ其他明治六年二月別紙第三號寫ノ如キ本縣(神奈川縣)御達モアレハ最早質流地アリト云昔難トモ果シテ然ラハ其時々兵長役場ノ帳簿書換ニ可キハ當然ナリ然ルニ其儀ヲ以テ役場証文留記ニ有合質地ノ判然記載シテ法外原告申立不條理ナリト云

第三條

原告ニ於テ明治五年所有地取極リ及ヒ明治六年本縣御達等ヲ援引
シ東京上等裁判所判決文中明治六年第十八號布告以來地所質入書
入ノ規則ニ從ハテ以テ質地ノ効チキ者トセラレズルヲ不法
ト云ト雖モ前條ノ如ク戸長役場ノ帳簿更改無之上ハ明治六年第
十八號布告ニ抵觸シ質地ノ効チキ者ト云テ原約ノ通り幾年相
立トモ金子有合次第請戻ス可キ權利ヲ存スルモ以テ該返地ヲ
拒ムハ不條理ナリ

凡質地ハ明治六年五月十四日ノ布告ニ據レハ明治五年壬申三月十
五日以前ニ取引シタル者ニシテ同年季明ケ不受戻時ハ從前ノ通り流
地タルベキ者ナリ故ニ右期日以前ハ質地ニシテ同年季明ケ不受戻者
ハ舊來ノ慣行ニ從ヒ流地ノ裁判ヲ爲スベキ者ト云テ今上告スル處ノ

質地ハ天保十二年丑十一月ヨリ向キ五ヶ年季ト定メ同年季明ケヨリ
金子有合次第可受戻トノ契約ナシトモ舊來ノ成例ニ質地ハ十ヶ年
限リシ者トシ質入証文中流地文言有之分ハ期月ヨリ二ヶ月流地文
言無之分ハ十ヶ年ノ内受戻ヲ許スト云ニ照セハ本案ノ質地ハ受戻
ノ期限過去リ既ニ流地トナリシ者ナリ
然ルニ東京上等裁判所ノ裁判ハ原告カ舊幕府ノ規定ナリトスル七
十三ヶ條ヲ相手方ノ者認メサルト云テ以テ流地ノ証トナサズトス
レトモ右規定ノ流地處分ハ舊幕府ノ成例ニ適合シタル者ナレハ其
支配ヲ受ケシ人民ニシテ之ヲ認メスト云テ以テ流地ノ証トナラス
ト云フ可カラサルナリ又右質地ハ明治六年第十八號布告地所質入
書入規則ニ抵觸スルヲ以テ質入ノ効チキトスレトモ右規則ハ當時
質入又ハ書入致シ置キ年季中ノ分ハ其規則ニ照準スヘシトアレト

モ本案質地ノ若キハ前節ニ於テ辨明シタルカ如ク既ニ流地トナリシ者ニシテ改メテ右規則ニ照準スヘキ者ニアラサレハ其規則旨牴觸スルト云フ以テ質入ノ効ナシト爲ス可ラザルナリ因テ東京上等裁判所ノ裁判ハ之ヲ法律ニ違フタル裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判スルノ左ノ如シ
本案ノ質地ハ舊來ノ慣行ニ於テ既ニ流地トナリシ者ニ付被告ニ於テ之ヲ受戻スヘキ權利ナキ者トス

第七拾九號

○松山伐木對談違約ノ上告判文
明治十年六月廿五日
上告明
治十一年五月廿八日申渡
原告
下野國安蘇郡出流原村
三小區

下野國安蘇郡出流原村

鶴崎仙造

鶴崎茂市

被告

下野國安蘇郡出流原村
三小區

山崎善七

東京上等裁判所ノ判文

松山伐木對談違約ノ一件水戸裁判所枋木支廳ノ裁判不服ヲ越法以テ及控訴遂吟味ヲ處
原告訴ル要旨ハ被告ニ於テ證據トスル松山賣渡証書ハ被告周旋ヲ以テ出流原村小川彦十郎ハ賣買ノ契約ヲ爲シタル手附金ノ受取書

ニシテ被告へ對シ賣渡シタル証書ニ非ス則チ明治八年十二月二十三日早朝被告ハ右彦十郎使トシテ手附金都合拾貳圓ノ請取書下案ヲ持參致スニ付長男茂市ニ爲認被告へ相渡シタルモノナリ即日彦十郎ト賣買對談証書爲取替十二月二十六日ヨリ彦十郎ニ於テ伐木ヲ始メ三十日代金ノ内三拾八圓彦十郎ヨリ受取タリ然ルニ明治九年一月ニ至リ突然前受取証書ヲ以テ被告自ラ買取タル趣キヲ主張シ遂ニ舊枋木裁判所ニ於テ對談違約ノ訴訟ニ及ヒ明治十年一月二十三日水戸裁判所枋木支廳ニ於テ被告請求ノ通り履行スヘキ旨裁判セラレタルハ不服ニ付更ニ覆審ヲ乞フトノ趣ナリ

被告答ル要旨ハ明治八年十二月二十三日原告持山松立木松葉ヲ除ク外代金百二十圓ト定メ即時手附金拾貳圓ヲ渡シ賣買對談ニ確証ヲ受取タル后十二月二十六日ニ至リ小川彦十郎ニ於テ右松山伐木

致スニ付直チニ原告へ及掛合タル所被告ニ賣買ノ証書ヲ渡シタルハ彦十郎代理ト心得タル故彦十郎ニ伐木爲致タル旨申募リ無餘儀村吏ヲ取扱ヲ受テ右レトモ埒明不申途ニ舊枋木裁判所ニ訴出審問ノ末水戸裁判所枋木支廳ニ於テ被告申立ノ通裁判相成タルトノ趣ナリ

依テ判決ズル左ノ如シ

第一條

原告ニ於テ明治八年十二月二十三日被告ニ賣渡シタル松木賣渡ノ証書ハ小川彦十郎ト賣買ノ契約ヲ爲シタル手附金ヲ受取書ナリ旨申立ル雖モ該証書ヲ閱見スルニ正ク原被告間ニ成立タル賣買契約ノ証書ニシテ彦十郎又ハ彦十郎使ニ對シタル手附金ノ受取書ニ云フヘキモノニ非ス

第二條

原告ニ於テ被告ハ原告ノ無筆ホ場ヲ以テ如此下案ヲ持參シ如此証
書ヲ取テ欺騙ノ所爲ニ出テタル旨申立然ト雖モ該証書ハ原告
自ラ其長男茂市ヲ以テ認メ出セタルモノナレバ豈其証書ノ文意ヲ
聞知セズシテ撰リ記名調印之ヲ被告ニ渡スヘキ理アルヤ故ニ
被告ノ欺騙ヲ以テ取得タルモノト爲スヲ得ス

第三條

原告ニ於テ當時全ク被告ト賣買ノ契約セシモノナラハ該証書ハ必
双方ニ爲取換置シテ入處無其儀被被告ヲ欺騙ニ出テタル証書大
旨申立然ト雖モ被告ニ於テ當時該証書ハ双方ニ爲取換置セタル
旨申立且買入ヨリ賣人ニ對シテ賣人ヨリ買人ニ渡シタル証書ヲ
以テ其契約ヲ証明スヘキモノナレバ賣人ニ於テ買人ヨリ証書ヲ取

置カスト買人ニ對シテ渡シタル証書ハ欺騙ニ出テタリト謂レナ
キ旨申立然ト雖モ被告ニ對シテ賣人ヨリ買人ニ渡シタル証書ハ
第三條第四條ニ於テ賣人ニ對シテ買人ヨリ買人ニ渡シタル旨申立
然ト雖モ被告ニ對シテ賣人ヨリ買人ニ渡シタル旨申立然ト雖モ
原告ハ於テ該契約ノ價金金百五十圓セシ該証書ニ拾貳錢ノ印紙
ヲ貼用シタル處ニ於テ時彦計郎使ハ金拾貳圓ヲ受取書ヲ渡シ
得ナルヲ以テ賣人印紙ヲ貼用セシ旨申立然ト雖モ當時誤テ一錢印
紙ヲ貼用セシ証書知ルヘカラズ然レニ之ヲ以テ彦十郎使ニ對シタル
受取書印紙ニ對シテ爲シタル事ハ被告ハ其旨申立然ト雖モ
第五條ニ於テ賣人ヨリ買人ニ對シテ賣人ヨリ買人ニ渡シタル旨申立
然ト雖モ被告ニ對シテ賣人ヨリ買人ニ渡シタル旨申立然ト雖モ
原告ハ於テ該契約ノ價金金百五十圓セシ該証書ニ拾貳錢ノ印紙
ヲ貼用シタル處ニ於テ時彦計郎使ハ金拾貳圓ヲ受取書ヲ渡シ
得ナルヲ以テ賣人印紙ヲ貼用セシ旨申立然ト雖モ當時誤テ一錢印
紙ヲ貼用セシ証書知ルヘカラズ然レニ之ヲ以テ彦十郎使ニ對シタル
受取書印紙ニ對シテ爲シタル事ハ被告ハ其旨申立然ト雖モ

ハ欺騙ノ所爲ヲ以テ取得スル旨自認セザル不相現直警察官ニ於テ
 欺騙ノ証ヲ認メ刑事事件付シタル後取捨モ非ラヌ小川彦十郎尾花喜
 平次片柳利平申立ニ由リテ書面寫ニ彦十郎於テ該論木伐採ノ
 節被告ノ立會タル趣記載アレトモ彦十郎ハ該論木伐採ノ當人ニテ
 喜平次利平ノ兩人ハ右彦十郎方手傳人ナル趣ナレハ何レノ申立モ
 被告ニ對シ確証トスヘキモノナラズモ且彦十郎該論木伐採ノ當人ニ
 第六條ニ依リテ該論木伐採ノ旨申立ルニ雖モ當人ニ對シ一證
 原告ニ於テ全ク被告ト契約セザルモ且彦十郎該證書ニ基キ明治八年
 十二月三十日代價ノ内金三拾八圓原告ハ相拂取ルニ筋分ルニ其義
 ナキハ被告ニ責拂フタルモノニ非ル一証ナル旨申立ルト雖モ右三
 十日以前に計六日に於テ彦十郎伐木ノ丁アレハ當時原被ノ間ニ紛
 議生ズルニ付小川勿論ナルコトニ付右三十日に金圓ヲ拂ハサルヲ以テ

原被ノ間ニ成立タル賣買ニ非スト云ヘカラス

第七條 買賣契約

前條々ノ理合ナクニ因リ初審裁判ノ如ク該證書ハ原被ノ間ニ於テ
 賣買契約ノ効ヲ生ズルモノト可相心得候事 明治十年五月十二日

大審院ニ於テ

原告ハ 搦崎仙造代人 搦崎茂市 上告ノ要旨

第一條

原告ハ明治八年十二月中自分所持ノ松山立木ヲ被告善七ノ紹介ヲ
 以テ同村小川彦十郎ニ賣渡シ左ノ如ク證書爲取換置タリ
 買請申爲取換證書ノ事 原告第一號証

松山壹ヶ所字西根入本
 一松立木千貳百四拾七本
 但松葉ハ除カ

丙貳拾四本立字除之
引及千貳百貳拾三本

印紙

此代金百貳拾圓也

明治八年十二月廿三日

內金拾貳圓也

一金三拾八圓也

引及金七拾圓也

實若以通リ買請申處實正也然必正若日限無相違相渡可申候若シ

前當入出來兼候節六請人方三引請貴殿之聊御苦勞御損毛相掛多

申間敷爲後日買受証書如件

出流原村

買請人

明治八年十二月廿三日

小川彦十郎印

請人

尾花喜平次印

出流原村

賣野人
揚中崎仙傳造殿

無賣渡申証書之事 原告第 三號証

大松山壹所字西根入

三松立木千貳百四拾七本

丙貳拾四本立字除之

引及千貳百三十三本

印紙

此代金百貳拾圓也

明治八年十二月廿三日

內金拾貳圓也

一金三拾八圓也

引込金七拾圓也

小川善七郎使世話人
山崎善七殿ヨリ受取
當十二月三十日
限リ可請取等
來ル明治九年二月二
十日限リ可受取等

右ノ通り賣渡申處實正也然ル上ハ右日限無相違御渡シ可被下等
尤伐木ノ義ハ御勝手次第収納可被成候右山ニ付脇々ヨリ聊故障
無御座候爲後日賣渡シ申証書如件

出流原村

賣渡人

搦崎仙藏印

請人

搦崎新平印

出流原村

小川彦十郎殿

而シテ明治八年十二月二十三日手付金拾貳圓ヲ彦十郎使被告善七
ヨリ受取被告ノ起案セシ左ノ請取証書ヲ相渡シ置キ

原告第
三號証

一松山三拾七年立木數千貳百四拾七本ノ内立木二十四本残り

外松葉拔キ代金百貳拾圓也

右ノ通り賣渡手金拾貳圓正ニ受取候也跡金ノ儀ハ當月三十日限

リ金三拾八圓御渡シ可被下候議定残り金七拾圓ハ來ル明治九年

二月二十日御渡可被下候但シ伐木ノ義ハ今日ヨリ御勝手次第伐

木収納可被成候爲後日對談証書依之書付如件

出流原村

明治八年十二月廿三日
出濱村
馬崎 仙造印

爾後明治八年十二月廿六日小川彦七郎被告善七共立合立上伐木
相始第一號証約分燈明治八年十二月三十日賣代内金三拾八圓
彦十郎ヨリ受取左列如御請取証相渡引置久立才二十四本然

紙原告第
四號証送、帶証據書、麻紙、置

一金三拾八圓也且二十三日手付山代金也

第八年十二月廿三日
馬崎 仙造印

出濱原村

然ルニ被告善七ヨリ前文第三號請取証ヲ以テ初木裁判所へ出訴及
ヒ裁許ノ未不服ノ廉有之原告ヨリ東京上等裁判所へ控訴及ヒシ處
判文第一條ニ該証書ヲ閱テ正シ然原被ノ間ニ成立タル賣買契
約ニ証書トテ以偏重文面上ニ泥執事理ヲ尽サ、ル皮相ヲ見解
下サレタル裁判ナリ如何ハ以賣買契約ナルモノハ双方義務ヲ
存スル在テ賣代金賣渡証ヲ渡セハ買入其ハ買受証ヲ受取置
當當然主若賣人於買受証ヲ取置カサレトモ他日賣代金ヲ
請求スル權ヲ保護スル能ハサレハナリ且裁判狀第三條ニ被告ニ於
當時該証書ハ双方爲取替置スル旨申立云々トアソトモ被告提
供該証書爲取換ソ文詞尙ナク原告現ニ小川彦七郎トテ賣買

爲替証書之確乎存在スルヲ問キ何等ノ證據モナキ被告ノ片言ヲ信
 認セラレタルハ事實ニ乖ル裁判ナリト思考ス
 第二條 被告ハ前文第三號証書ニ依リて原告ヨリ手金拾貳圓ヲ受取証ナ
 前文第三號証書ニ依リて被告ハ原告ヨリ手金拾貳圓ヲ受取証ナ
 レハ正當ナル印紙壹錢ヲ貼用セリ若シ賣買契約証ナラバ下キハ代金
 百三十圓ナル以テ即チ拾貳錢印紙ヲ貼用セサルヲ得ス然ルニ判
 文第四條ニ當時誤テ壹錢印紙ヲ貼用セシモ知ルヘカラス依テ受取
 証トガシ難シト證據ナキ推測ヲ以テ裁判ナリタルハ是又不法ト云
 ハサルヲ得ス
 第三條 原告ハ該件ノ事實ヲ証セシムル爲メ小川彦十郎尾花喜平次片柳利平
 ノ三名ヲ証人トナシ申立タルニ判文第五條喜平次利平ノ兩人ハ彦
 十郎ノ手傳人ナル趣ナレハ被告ニ對シ確証トナルヘキモノニ非ス
 トアレトモ彦十郎ハ暫ク閣キ喜平次利平ノ兩人ハ一時伐木ノ手傳
 ナナスマテニ彦十郎ノ雇人トハ性質ヲ異ニスルモノナレハ該事
 件ノ証人トナスモ何ソ嫌疑アララン然ルニ雇人ト同一視セラレ確証
 ニナルヘキモノニ非ストノ判決ハ誤斷ノ裁判ナリト思考ス

第四條

被告提供

ハ元來被告ノ欺騙ニ出テタルト左ノ如シ

第一 該証ハ當初全文被告善七ノ手ニテ起草シ原告ヘ渡シタリ

元來原告ハ無筆ニシテ丁字ヲ不知悴茂市ハ之ヲ筆書スルモ當

時幼年ニシテ事理ヲ辦スル不能畢竟証書文詞ヲ如何ハ原告父子

ニ於テ辨知セザリシ

第二 該賣山ハ明治八年十二月二十六日正當ノ買人小川彦十郎

於テ伐木ヲ始メ明治九年二月一日ニ伐終ルモ突然此ノ被告
 同村ニ住居シホカヲ何等ノ故障モ申立ヌ明治九年一月四日ニ至
 然始テ戸長役座ニ突然違約ノ申立ヲ爲シ被告ハ真正ニ買ビ
 得タルモノナレハ何ヲ他人ノ伐木ニ坐視スルヲ謂ヒヌ
 但判文第六條ニ右三土目前彦半郎伐木ノ下ア以ハ當時原被ノ
 間ニ紛議ノ生スヘキハ勿論ナルト下判決セラレタルハ何等ノ
 証ニ據リ紛議ヲ生シタルヲ推測セラレタルヤ之レ畢竟想像
 特ニ裁判ト云ハサルヲ得ス
 第三、該証書中明治八年十二月三日限リ金三拾八圓可相拂文
 詞アレトモ其義ナキハ被告正當ニ買入ニ非サルヲ証スルニ足
 如此被告ノ所爲ハ正當ノ買取人ニ非シテ欺騙ニ出タル証左在ナカ

テ東京上等裁判所ハ總テ被告ノ欺騙ニ出タルモノニ非スト判決セ
 ラレタルハ頗ル事實ニ乖ケル裁判ナリト思考スルニ依リ原裁判ヲ
 破毀アレシトナシテ
 上告追加
 被告山崎善七ニ於テハ松山伐木對談違約ノ訴銘ヲ以該訴ヲ起セ
 シナレバ伐木云々ノ裁判アルニキ筈ナルニ賣買云々ノ裁判ナリ
 タルハ則チ裁判ノ定規ニ乖ケルモノト思量スルヲ以テ破毀ヲ求
 ムル所ナリ
 上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス
 第一項
 原告第三號証即明治八年十二月二十三日附原告仙造ヨリ被告善七
 宛タル証書ハ其實原告仙造ヲ被告善七ノ紹介ニテ小川彦半郎

松立木千貳百貳拾三本ヲ代金百貳拾圓ニテ賣渡シノ契約ヲ爲シ手
附金拾貳圓ヲ被告善七ヨリ受取タルニ付其受取証トシテ被告善七
ノ下案ニ準ヒ認メ渡シタルニ豈圖ンヤ右ハ被告善七ノ欺騙ニ陥リ
タルモノニテ今日ニ至テハ右手附金受取証ヲ以テ松立木買取ノ契
約書ナリトシ被告善七ヨリ訴訟ヲ起シタリ然ルニ初審及ヒ終審裁
判所共ニ前顯原告第三號証ヲ買賣ヲ約シタルノ証書ト認定セテ
裁判ヲ受タルハ不當ノ裁判ナリトスル事

第二項

當初被告善七ヨリ松山伐木對談違約ノ訴名ニテ出訴シテ終ニ原告
仙造ヨリ同シク伐木對談違約ノ訴名ニテ控訴シタルニ東京上等裁
判所カ賣買云々ト裁判ナリタルハ裁判ノ定規ニ乖ケリト思量スル
事

辨明

第一條

凡ソ契約ノ証書ハ其事故ノ原由目的ヲ記載シ之ヲ後日以証憑トナ
スモノナリ今原告第三號証ヲ閱スルニ

記

一松山三拾七年立本數千貳百四拾七本ノ内立木貳拾四本残り外
松葉拔キ代金百貳拾圓也
右ノ通り賣渡手金拾貳圓正ニ受取候也跡金ノ儀ハ云々伐木ノ儀
ハ今日ヨリ御勝手次第伐木收納可被成候爲後日對談証書依之書
付如件
下明記シテ又其宛名ハ山崎善七殿トアツテ其全文ハ全ク松木賣
買ヲ約シ且手付金ヲ受取シタルヲ証シタル文義ニシテ單ニ手付

金ヲ受取リシ証スル外書トハ認メ難シ加之山崎善七殿宛名ヲ
認因更ニ小川彦生郎ニ關係シテ其視ルニ由テ左スルハ原告仙
造右第三號証ハ被告善七ノ欺騙ニ出タルトテ縷々陳述スルモ確
然被告善七ノ欺騙ナリ証徴テモ之ヲ以テ原告第三
號証ノ文義ニ憑テサレテ得ルハ當然ナラズ於是東京上等裁
判所於原告第三號証ハ原告仙造ト被告善七トノ間ニ成立タル契約
ヲ明記シ及シ証書ニテ有効ノモノナリト裁判シタルハ不當ノ裁
判ニアラス也

第三條 第三號証ハ原告仙造ト被告善七トノ間ニ成立タル契約
ノ明記シ及シ証書ニテ有効ノモノナリト裁判シタルハ不當ノ裁
判ニアラス也
本訴ハ松山伐木對談違約ノ訴名ナリヲ以テ明治十年五月十二日付
東京上等裁判所ノ裁判言渡書冒頭ニ松山伐木對談違約ノ一件云々
ト記載スルヲ東京上等裁判所ニ於テ其訴名ヲ變改シタルノ廉ア

ルヲナシ然レハ定規ニ乖キタルノ裁判ト云フヲ得サルモノトス

判決

前條ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキ
モノトス

第八拾號

○質地取戻上告ノ判文 明治十年五月十四日上告明
治十一年五月廿八日申渡

原告

神奈川縣下武藏國橘樹

郡保土ヶ谷町平民池田

兵右衛門

東京府平民

武田仁太郎

被告

神奈川縣下武藏國橘樹

郡保土ヶ谷町平民

加藤勘次郎

東京上等裁判所ノ判文人

明治二十年五月

加藤勘次郎

原告（加藤勘次郎）訴フル趣旨ハ去ル嘉永六壬午年七月中亡父權右衛門ヨリ上畑合三反三畝二十五步代金三十圓ヲ以テ被告（池田兵右衛門）方へ質入致シ七ヶ年ヲ期限定メ若シ右期限質代金調達致シ兼テ爾時ハ幾年相立トモ金子有合次第受返スベキ契約ヲ以テ証書差入置キ

相渡申有合質地証文ノ事

- 一 上畑壹反三畝三十四步
- 一 同統畝二十步
- 一 同壹反壹畝十壹步

合反別三反三畝二十五步

右ハ保土ヶ谷町下分御水張面前書名前ノ分先年我等方へ質物ニ取置候處數年所持イタシ候處追々御年貢入用等ニ差支組合親類相談ノ上當丑年ヨリ七ヶ年季有合質物ニ相渡シ置金貳拾兩唯今不殘體ニ受取申處實正也然ル上ハ御年貢諸役入用等共其許ニテ御勤書面之地所々持被成候且又年期明元金貳拾兩也返濟申候者質物之地所無相違御返シ可給若其節金子調達イタシ兼候トモ幾年モ有合ニイタシ候間重テ金子相調候者勝手次第受返候迄此証文ヲ以テ何ヶ年モ所持可被成勿論御年貢未進等無之外ハ書入質物等ニイタシ置不申候右地所ニ付組合親類ハ不申及外ヨリ故際申者一切無御座候万一六ヶ敷儀申者有之候得共我等加判ノ者何方迄誰用明貴殿へ少モ御苦勞相掛申問敷爲後日有合質地証文

依テ如件

嘉永六年丑七月

質地主

權右衛門印

組合惣代

三郎印

親類惣代

金藏印

兵右衛門殿

前書之通相違無之ニ付奥印致置候也

年寄

四郎兵衛印

名主

清兵衛印

然ルニ七ヶ年ノ後原告(加藤勘次郎)ヨリ度々受戻方及懸合タレトモ其時

々申延ノミ致シ受戻行届カス明治五申年地券發行ノ際ニ至リ猶取

戻方懸合タルニ差戻不申不得止明治九年七月一日舊神奈川裁判所

へ及出訴處明治九年十一月二十七日横濱裁判所ニ於テ該質地ハ嘉

永六年七月ヨリ七ヶ年ノ期限ヲ除去シ明治二年七月ヲ以テ滿十ヶ

年ナルニ此期ヲ經過シ以降延期ノ勘辨ヲ請タル証無之況ニヤ明治

五年中被告ニ於テ該地ノ券狀申受ノ儀申タル上ハ流地セシモノニ

付受戻ス可キ權利無之旨裁判相成タリ然レトモ該約定タルヤ金子有

合次第可受戻管ナレハ七ヶ年ノ後十ヶ年ヲ經過スルトモ流地タル

ノ謂レアルヘカラス且明治五年十二月中各自持高年貢諸役自分ニ

テ相勤メ居ル分ヲ取調可差出旨戸長ヨリ達有之則チ取調差出タル

三猶實印持參可致旨達有之。付同長方へ罷越シテ帳簿ヲ
 取出シ押印可致旨申聞。任セ印章捺押致シタリ然ルモ右前捺高
 ナ根據下ナシ地券調ノ下帳ヲ仕立押印爲致タル旨追テ承リ及ヒタ
 ルニ依リ當時質入相成居ル分モ書出シ度旨明治六年三四月ノ頃長
 長方へ申出タルニ地所質入中六質取主ニ於テ地券申受ケ置地主受
 戻ノ上ハ地券可書換規則ノ旨戸長菊部庫次郎ヨリ説諭有之ニ依リ
 其意ニ任セ置タル儀ニテ素ヨリ被告ニ於テ地券下調帳へ調印セシ
 ナ默許セシ者ニ非ラズ右ノ次第ガルヲ以テ該質地流地ノ裁判相成
 タルハ不服ニ付前約ニ基キ受戻相成様裁判受度旨申立被告答不
 ル主意ハ該地ハ嘉永六年中被告亡父兵右衛門ニ於テ代金二十圓ヲ
 以テ七ヶ年季質地ニ取置當時約定ノ趣ハ原告申立ノ通リ相違無之
 然ル處季明後受戻相成様原告方へ懸合申舊幕府上洛及ヒ維新ノ

際ニ方リ諸夫役錢等非常ニ相掛リ多分ノ損失ニ立至リ依テ受戻ノ
 儀猶相迫リタル旨猶豫ノ儀ニ申聞終ニ明治四年ニ至リ彌受戻
 難相成指原告ヨリ申聞及ニ付流地旨原被告双方ヨリ戸長へ相漏其
 後明治五年地券書上帳該地被告持地ノ旨記載シ差出被控ヨリ然
 ルニ原告ハ再ニ受戻シノ念慮ヲ發シ出訴及ヒタル儀ニテ事實流地
 不相成儀ナルハ前地券書上帳へ被告ノ調印セシ節原告ハ之ヲ拒
 且ツ自己ノ名前トナスヘキ管ナルニ其儀ナク今日ニ至リ質入申
 ナリト申立ハ不都合ナル旨申付ラズ明治八年申神奈川縣廳ヨリ
 保土谷驛一敷地所取調相成タル節該地ハ被告名前ノ標杭打
 立タリ且ツ明治六年第五拾壹号布告及ヒ明治五年二月廿五日以前
 取引ノ質地ハ季明後不受戻相成様流地相成様旨申立原告
 需以應ニ難法律ト思量應就右地券書上帳編制以前村吏位會

實地取調ノ節該質地ノ外中畑壹畝五歩ノ地所有之右ハ全ク原告ノ所有ニシテ被告ノ耕作スル地ニ非ラザルニ依リ直チニ原告ニ返付セリ又保土谷驛役場ノ帳簿中嘉永年間地所書入質入ノ簿記記載有之分ハ該地嘉永六年ヨリ七年季質地所記ル記號アリテ前陳ノ如ク流地ノ証分明ナルニ付今更差帳簿難ク指申立テ判決スル左ク如ク

第一條 被告ハ於テ該地ハ明治四年中流地ニ付申立テ其證據ヲ以テ被告名前ノ標杭打立タル云々申立テ其調查中ノ處分ヲ以テ確定ナル証ト爲スヲ得ス何トナシハ從前質取主名前ヲ以テ一切地所

第三條

ニ係ル義務ヲ盡スモノナレハ便宜被告ノ名前ヲ用ヒタルモ知ルベカラザルナリ

被告ニ於テ明治五年地券書上帳ニ該地ハ被告所持ノ旨記載アル旨申立レトモ神奈川縣廳ニ及照會タルニ右帳簿ハ半途廢止セシモノニテ官吏調査法經タルモ以テ無之旨申來リ且ツ右帳簿ハ田畑其外直段書上帳ト記載有之ヲ見レハ之ヲ以テ各人ノ所有ヲ確定セシ證據ト爲スベキニ非ラス

第三條 被告ニ於テ明治六年第五拾壹号布告及ヒ明治六年司法省第四十六號布達ヲ以テ原告ノ請求ヲ拒ムト雖トモ該質地ハ幾年相立トモ金子有合次第可受戻趣ニテ到底無期ノ契約ナレハ右五十壹号布達但

書及第四半只號希達之文意等致誤論駁之限分迄于受等
前條之理由信付該地之被告等於未之所有權等得之証據等
キモノニ付則等貸借ノ契約ナレハ被告ニ於テ其返金ヲ拒ムノ權利
等モ致不可相心得事 明治十年三月十五日

大審院官於
原告池田兵右衛門代武田仁太郎止告之要領ハ頂替其長
明治十年三月十五日東京正等裁判所ニ於テ言渡等九裁判ハ不
法之裁判ナリ等以テ被毀等請等條件左ノ如シ

第二條

嘉永六年七月中被告加藤勘次郎亡父權右衛門ヨリ七ヶ年季質地ニ
取置タル畑地反別合三反三畝二十五步流地ノ趣ハ明治四年中原被

双方ヨリ戸長役場へ届出役場ノ帳簿ハ原告名前ニ書改メタリ
本文戸長役場帳簿寫左ノ如シ

記

一上畑壹反二畝三十四步
二上畑九畝三十步
三上畑壹反壹畝十壹步
四合反別三反三畝二十五步
右ハ明治四辛未年中ハ保土ヶ谷町池田兵右衛門名前ニ相成居候
儀相達無乏候以

第三大區一小區
副戸長
明治十年三月廿九日

故ニ地券發行ノ際券狀申受書上帳モ該地ハ原告ノ所有ニ記載調印
 シ被告ニ於テモ之ヲ拒マサリシ是則テ流地タルノ明証ナリ然ルヲ
 東京上等裁判所判決文第一條ニ於テ流地トナリシ旨申立レトモ証
 據ナケレバ採用シ難シトセラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス
 第二條
 明治八年中神奈川縣廳ニ於テ該地ハ原告池田兵右衛門名前ノ標杭
 ナ打立タルトアリシハ已ニ原告ノ所有地ニシテ質地ニ非サレハ
 當然ノ丁ナリ然ルヲ調査中ノ處分ナルヲ以テ便宜質取主ノ名前ヲ
 用ヒタルモ知ル可ラザルナリト判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリ
 ト思考ス

第三條

明治五年中地券書上帳成立ノ時各自競テテ所有地ヲ書載シ調印セ

リ是他ナシ地券ヲ申受サルトキハ所有ノ權ヲ失スルニ因レリ故ニ
 該帳簿ハ當時各人ノ所有地ヲ証シタルモノナルトハ確然タリ然シ
 テ該畑地ハ原告ノ所有地ニ書出シタルヲ被告ニ於テ其苦情ナカリ
 シハ自己ノ所有ニアラザルヲ明許シ居レハナリ然ルニ該帳簿ハ
 官吏ノ調査ヲ經ス半途廢セシモノニシテ且ツ田畑其外直段書上帳
 ト記載シアルヲ見レハ之ヲ以テ各人ノ所有ヲ確定セテ證據ト爲ス
 可キニ非ラズト判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

第四條

地所無期限ノ質入契約ハ已ニ明治六年第十八號ノ布告及ヒ明治六
 年二月神奈川縣布達ニ依リ存在セサルモノト爲ス
 本文神奈川縣布達左ノ如シ
 先般地券御發行ニ付田畑山林質地取引ニ付銘名請以儀村々

リ申立有之處右ノ内年季決定有之年季明何年相立候テモ
 金子有合次第可受戻申ノ証文而或ハ年季定無之金子調達次第可
 請返旨認以有之証文未以質地取引致居候分左ノ通
 一質地年季定有之年季明何年相立候トモ金子有合次第可請
 戻ト有之流地文言無之証文ハ年季明ヨリ十ヶ年ノ内ニ候者元地
 主名面未以テ地券可相渡事
 二質地年季定無之金子有合次第可請戻申ノ証文ハ質入ノ年季
 十ヶ年内ニ候者元地主名前未以地券可相渡事其後質取主
 右ニ條是迄及示談候分ハ一切取上無之勿論以後質取主熟談致候
 儀可爲勝手事
 三是迄地券渡濟村内券狀其村御預リ地ト記載相渡シ候分ハ
 總テ公有地ト可相心得事

右ノ通觸示候條小前未々迄無渡落可觸示者也

明治六年三月十四日 神奈川縣權令大江卓印

然シテ明治七年第七十六號公布ノ手續運ハ流ルモ蓋シ被告
 於テ該論地ハ已ニ其布告布達前流地不成リ原告ノ所有ト看認
 ル者ニテ當時其爭フ可ラサルヲ知レハナリ然ルニ該質地ハ幾年相
 立トモ金子有合次第可受戻越トモ到底無期ノ契約ナレハ明治六年
 第五十壹號布告但書及明治六年司法省第四十六號布達ノ文意
 以テ論以前キ限リニアラストモ此テ不法ノ裁判ナリト思考
 ス

第五條

流地及宅地券申受ノ手續ヲ爲シタルヲ以テ質地ノ貸借契約ヲ消散
 致タルモ以テ故該質地受戻ヲ拒ムノ權利存有セラル論候

然ルヲ未ダ該地ノ所有權ヲ得タル證據ナキニ因リ則チ貸借ノ契約
ナレバ其返金ヲ拒ムノ權利無キモト判決セラレタルハ不法ノ裁
判ナリト思考ス

明治十一年三月十六日原告代人武田仁太郎陳述

被告加藤勘次郎ヨリ東京上等裁判所ニ差出シタル質地證書ノ寫ハ
大概然モ有之候哉ト見認タル迄ニテ其證書本紙ハ一切無之候事

被告加藤勘次郎答辨ノ要旨 明治十一年五月十八日

原告ニ於テ流地ニ趣キ明治四年中原被双方ヨリ戸長役場ニ届出役
場ノ帳簿ハ原告名前ニ書改メタル旨申立テ雖モ舊神奈川裁判所
密問中副戸長ヨリ呈供シタル書面左ノ如キ候事
以書付奉申上候

第二大區一小区保土ヶ谷驛原告人勘次郎申上候儀去ル嘉永六年

年九月中實父權右衛門ヨリ同所兵右衛門方ニ相渡シ置証

文控戸長ヨリ取調可差上旨右原告代人長谷川竹次郎ニ被仰付候

儀當戸長ニ申出候ニ付舊戸長輕部庫次郎方ヲ取調候處有合質地

ニ相渡シ置候儘舊記証文控ニ記載有之其後証文認シ替相渡シ候

儀ハ右留記無之輕部庫次郎ニ於テ覺悟無之旨申候ニ付此段申

上仕候

副戸長

安藤 政 八印

明治九年第七月五日 神奈川裁判所長

立木四等判事殿

然レハ被告ニ於テ判決テ流地ノ届ケ付テ又原告ノ戸

長役場帳簿ノ寫ヲ掲ケテモ從前質入日ヨリ該帳簿質取主ノ名
前ニ相成ルハ保土ヶ谷一般ノ習慣ナリ而シテ本件流地ノ確証ナケ
レハ東京上等裁判所ニ於テ流地トナリシ旨申立レトモ証據ナケレ
ハ採用シ難シト判決アリシハ至當ノ裁判ナリトス

第二條

神奈川縣廳ニ於テ本訴ニ係ル畑地ハ原告名前ノ標杭打立タルトノ
アリシヲ以テ原告ハ所有地ニシテ質地ニ非ラスト云フ雖モ凡テ質
地ハ質入日ヨリ質取主ニ於テ一切ノ義務ヲ負擔スル者ナリ明治
八年中原告名前ノ標杭打立ラレ流地ト確定シ証據亦爲テ可
キニアラズ因テ調査中ニ處分ナリテ以テ便宜質取主名前ヲ用
タルヲ知ル可カラザレバ判決アリ後至當ノ裁判ナリトス

第三條

原告ニ於テ地券下調書上帳ハ當時各人ノ所有地ヲ証シタルモノト
爲シ其際該畑地ハ原告ノ所有地ニ書上ケタルヲ被告ニ於テ苦情ナ
カリシハ自己ノ所有ニアラサルトテ明許シタルナリト申立ルト雖
トモ明治五年中戸長役場ヨリ自分ニテ貢租上納スル地所書出ス可
シトノ達シニ應シ書出シ置タリ其後役場ニ於テ横綴ノ帳簿ヲ出シ
調印セシトアルニ依リ押印シタルトアリシニ追テ該横綴ノ帳簿ヲ
地券書上帳トナシタルトテ聞知シ明治六年三四月頃役場ニ至リ從
前質入ニ相成リ居ル地所ヲモ書載調印セントテ請ヒタルニ質地ハ
質取主ヨリ書出シ置クハ當然ノコトニシテ若シ元地主ニ於テ質地請
戻ストキハ地券書換遣ハス可シトノ戸長説諭ヲ首領シ即チ原告方
ヘ請戻シテ促カシタル末明治七年中舊神奈川裁判所へ質地請戻シ
ノ詞訟ヲ起シタル程ナレハ被告ニ於テ許諾シタルノ証アルヲ無シ

因テ該帳簿ハ各人ノ所有ヲ確定セシ証據ト爲ス可キニアラスト判
決アリシハ至當ノ裁判ナリトス

第四條

明治六年二月ノ神奈川縣布達ニ依リ原告ハ質地受戻シテ抵拒スル
ト雖トモ該神奈川縣布達ヲ以テ明治六年太政官第十八號公布ヲ取
消ス可キモノニ非ラサレハ原約ヲ履行スヘキ者ナルト明白ナリ故
ニ該質地ハ幾年相立トモ金子有合次第可受戻趣ニテ到底無期ノ契
約ナレハ明治六年第五十一號布告但書及ヒ明治六年司法省第四十
六號布達ノ文意ヲ以テ論スヘキ限リニアラスト判決アリシハ至當
ノ裁判ナリトス

第五條

原告ニ於テ流地及ヒ地券申請ノ手續ヲナシタルヲ以テ該質地受戻
シテ拒ムノ權利有之旨申立ルト雖トモ明治六年太政官第十八號公
布ノ手續ヲ遵ハサル上ハ原告自ラ明許シタル者ナリ因テ該地ノ所
有權ヲ得タル証據ナキニヨリ則チ貸借ノ契約ナレハ其返金ヲ拒ム
ノ權利ナキモノト判決アリシハ至當ノ裁判ナリトス

第六條

被告ヨリ差出シタル質地証書寫ハ原告ニ於テ大概ニ見認タル者ニ
シテ本紙ハ一切無之旨申立ルト雖トモ横濱裁判所及ヒ東京上等裁
判所ニ於テ原告自ラ被告申立ノ如ク契約シタルニ相違ナシト申供
シテカラ今ニ至リ本紙一切無之トハ不都合ナル陳述トス

辨明

舊幕府ノ法例ハ凡ソ質地ハ十年期限ト定メ又明治六年二月十四
日ノ布告ニ明治五年壬申二月十五日以前ニ取引シタルモノニシテ

年期明不受戻トキハ從前ノ通流地タルヘキ事トアリ乃チ質地ハ十
 ケ年ヲ期限トシ右期限ヲ經過シテ受戻サルルモハ流地タルノ慣
 行ナリトシ今本按爭訟スル質地ハ嘉永六年丑七月ヨリ向七ケ年期
 卜定メ右期明キ以後ハ金子有合次第可受戻トハ契約ニテ嘉永六年
 丑七月ヨリ七ケ年間ハ定期ニテ滿七ケ年以後ハ即チ無定期ノモノ
 ハ如クナレトモ質地ハ十ケ年限トナスノ成例ニ憑レハ即チ本按質
 地ハ嘉永六丑年七月ヨリ以降滿十七ケ年中ニ受戻サルルモノナレ
 ハ本件論地ハ既ニ流地トナリタルモノトス然ルチ東京上等裁判所
 カ本案質地ハ流地ナラサルモノト裁判シタレトモ前項ニ辨明スル
 如ク本案ノ論地ハ既ニ流地トナリシモノナレハ東京上等裁判所ノ
 裁判ハ法律ニ違フタル裁判ナリトス

判決

前係ノ理由ナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ
 裁判スルコト左ノ如ク
 本案原告兵右衛門ト被告勘次郎ト等ハ質地ハ舊來ノ慣行ニ據テ既ニ
 流地トナリタルモノニ付キ今更被告勘次郎ニ付之レテ受戻申シ付請
 求スルノ權理ナキモノトシ故テ被告ノ請求ハ本件ハ流地タルモノトシ

第八拾壹號

○水車水掛妨害上告ノ判文明治十年十一月廿四日上告

原告 兵庫縣下攝津國八部郡

兵庫新在家町平民南條

新九郎

右代人 南條 震 三郎

被告 兵庫縣下攝津國八部郡

兵庫匠町平民

金増六兵衛

大阪上等裁判所ノ判文

水車水掛妨害ノ控訴遂審理處

原告訴ル要旨ハ兵庫永澤町字分樂寺ニ有之川池車ト稱スル水車ハ
 嘉永五年八月同所湊町坂倉平左衛門ヨリ原告へ買受營業シテ來
 リ被告ノ所有スル同所三川口町字大子免水車トハ水源水路ヲ異ニ
 シテ舊來原告ニテ一己所有ノ權利ヲ有シ被告ノ水車水掛リハ關
 係無之處明治九年三月被告ヨリ原告新々ニ樋門ヲ設ケ水車水掛リ
 ノ妨害ヲナセシ旨ヲ以テ始審裁判所へ出訴及ハレ同所於テ審問ノ
 末結局明治七年取建タル門扉ハ取毀チ古形ニ復スヘシト裁判セヨ
 レタリ然レモ該水車ハ創立ノ年月ヲ詳カニモサレモ始ト貳百年ノ

星霜ヲ經タルモノニテ其水源ハ石井村ニ在テ同村及ヒ奥平野村夢
 野村ヲ通過スルヲ以テ右村々へ水料差出シ來リシモノナレハ一己
 専用ノ特權アリ又被告ノ水路ハ湊川上ヨリ底樋ヲ通過シテ原告水
 車用水ノ下流手入灣出スル地方用水ノ餘分ヲ以テ設ケタル水車ナ
 ルハ地方車ト稱シ水源水質ヲ異ニスル明カニ且原告於テ古來樋
 門ヲ設ケタルハ地方ヲ住民土地ヲ潤ス必要ナル時其水ヲ得セシム
 ル爲メニテ春秋及彼岸ニ晝夜少内一方ヲ以テ地方耕田ノ用水ニ分
 與シ大池并川池ニ滿ルチ期トシテ之レヲ止ム夏分ニ於テハ水上村
 等ニテ耕田ヘ灌入スルニ平時水量多カラサルニ干水シテ自然休
 車シ強テ地方耕田ノ爲メニ休車スルニ之レナク然ルチ被告ハ
 原告ニ於テ樋門ヲ新規ニ受設ケタル旨或ハ貳番樋杭ノ切形及ヒ其
 所ニ打付テテ鐵釘ヲ分水ノ目標ナリト申陳スレモ指上池ニア

原告ハ樋門ハ明治七年十一月修覆シタル迄ニテ新規取設ケタルニ
 之ヒナク彼以テ樋杭切形ト言フ所ハ刃物ニテ切取タル如キ形ナク
 ルモ分水ノ目標タル切形ニハ之以テ元來釘ノ打込アル古木ナ
 堰板ノ押ヘニ用ヒタルモノナラン又該水車ヲ買受タルハ車壹輛
 目七拾四個ノ處川上車ト稱スル谷勘兵衛所有ノ水車設立以來水勢
 相増スニ付車ヲ貳輛トシ目八拾個トナシタルモノニテ其ヒカ爲
 該車ニ益アルヲ以テ石井村奥平野村ニ差出ス水料ヲ增加シ其増
 加シタル分ヲ勘兵衛ニ與フル心得ニテ證據物第一號ニシテ
 本文第一號証左ノ如クハ此水車ノ新設ニ付谷勘兵衛ノ水料
 一金四兩トシ目八拾個トナシタルモノニテ其ヒカ爲
 又銀八拾目

右ハ當亥年水車氷引出銀儘ニ受取申候以上

石井村

勘兵衛印

亥十二月晦日

網新様川池車

証

一金四圓

錢八貫文
此金六拾四錢

金四圓六拾四錢也

但シ水料

右ハ例年出金分正ニ受取候也

明治八年三月十三日

南條新九郎殿

谷勘兵衛印

ノ如ク同人へ相託シ夢野村へ同第三號
本文第二號証左ノ如シ

記

一金壹圓五拾錢

右ハ字山崎溝料正ニ請取候也

七年二月十五日

兵庫

網新車様

記

一金壹圓五拾錢

右ハ山崎溝料正ニ受取候也

明治九年二月廿六日

夢野村

夢野村印

長戸

打越孫兵衛印

川池車

網新様

ノ如ク直ニ水料差出シ同第三號

本文第三號証左ノ如ク

自覺

一金貳分三朱也

右ハ例年以通溝手料亥年分正ニ受取申候以上

明治八年十二月晦日

坂倉平左衛門印

南條新九郎殿

坂倉平左衛門へ溝手料差出セシハ同人持畑ノ傍ヲ用水ノ通過ス

故キ之レザリ同第四號出候ノハ、權人辨別、
本文第四號証左ノ如シ、

銀貳拾四匁七分運主銀、
又九分九厘、

口銀、
打銀、

百三拾目、
井料銀、

右之通來ル十五日迄、

無間違可被差出候以上、

午十一月、

地方、
印、

覺、

川原、

一百五拾五匁六分六厘、

右之通權ニ受取申候以上、

十二月十一日、

地方、
印、

公稅外地方へ井料銀ヲ差出セ、
夫ル伏セ樋堤等、
于今差出シ來ル原告專有權之レアルヲ判然、
服シ難キ旨陳述ス、
被告答ル要旨ハ兵庫三川口町字太子苑、
六月原告先代南條新九郎庄屋勤務中、
故無地方車ト稱シ、
進退シ明治五年十月同人俸井上豐次郎、
該車之用水ハ水源小部谷、

鼻指上溜池ニ流出スル水ト湊川底ニ伏樋ヨリ右溜池吹出シ下段へ
 潜出スル水當三斗之西ニ伏樋ニ方領盛夏ノ頃上流減少ノ足
 三設於之ニテ兩水路共專該地方田養ニ爲ス備置ナシ其
 溜池ニ於テ地方官流下ノ樋門ニ並置樋門ヲ唱テ其樋杭ニ慶應元年十
 月舊地方役人検査ニ上確定シタル兩車分水ノ切形スル又壹番杭ト
 唱ル水底ノ目標之アルノミナラス慶應元年十一月該車未タ庄屋八
 郎右衛門進退中被告借受營業トセシト八郎右衛門并被告及原告
 代理大奸并兼助原告水車支配大利兵衛ニテ魚住惣助ナルモノヲ証
 人ニ相立ニ同立會ニ上後年當至リ切形朽腐スルモ分水ノ目標滅ビ
 或爲切形へ四寸釘ヲ打込ニ置キ而シテ其土豐次郎ヨリ被告
 買受シ際念ノ爲メ壹寸釘ヲ打添ヌレト右ハ紛失シ四寸釘ハ今尙ホ
 存セリ且平日ハ切形ヨリ下タヘ堰板ヲ入レ其堰板ヲ越ス水ヲ被告

ノ水車ニ引用シ其水減シテ堰板ヲ越サス未タ壹番杭ノ願レサル間
 ハ原告ノ水車ヘノミ引用シ各用水ノ分量タルヤ六歩ハ原告四歩ハ
 被告へ分水セリ然ルニ原告於テ明治七年七月中新規ニ樋門ヲ設ケ
 堰板ヲ高クシ被告水車營業ノ妨害ヲナスヲ以テ始審ノ公裁ヲ仰キ
 已ニ裁決相成ル處原告之レニ服セス水上村々へ水料等差出スニ依
 リ一己専用ノ特權アリト主張スレト天然流下スル水路ヲ一水車ノ
 爲メニ専用スル義了解シ難ク右溜池ノ地所ハ地方ノ民有地ニシテ
 農民高掛リヲ以テ修理スルモノナレハ地方田養水タルト判然タリ
 又湊川ヨリ伏樋ノ水路アルト雖モ此水路ノミニテハ水力乏シクシ
 テ被告水車ノ營業相成ラス元來上流ノ分水ト伏樋ノ水トヲ合シテ
 被告水車ノ溝手へ流通スルモノナレハ水質ノ異ナルトナシ然ルヲ
 原告於テ恣ニ樋門ヲ設ケ落水ヲ堰トメシ原由ハ先持主坂倉平左衛

門ハ車壹輛曰三拾八個ヲ讓與シタルニ原告之レカ上ニ車壹輛曰四拾貳個ヲ増加セシニ因ルモノナリ且原告ハ谷勘兵衛上車設立ニ付從前ノ水料ヲ増シタリト陳述スレ凡川上車ハ嘉永二年ニ創立シ原告ハ川池車ヲ買受タルハ嘉永五年ナリ然レハ川上車設立ニ付水料ヲ増スヘキ理由之レナク原告於テ水上村々へ水料等ヲ與フルハ證據物第三號ノ通り水車ノ爲メ多少ノ害アルヲ以テ近傍田畑ノ持主へ被告於テ溝手料ヲ與フルノ趣意ト同一ニ有之將テ證據物第一二號引合書ニ戸長ノ答シ如ク地方耕田ノ窶水ヲ以テ兩車へ引用ノ分量ヲ確定シタルモノニ付原告於テ新規ニ取建シ繩門ヲ毀テ從前ノ通り分水ヲ受水車營業致シ度旨陳述ス

引合人坂倉平左衛門於テハ南條新九郎所有ノ川池車ハ嘉永三年六月吉田屋喜兵衛ナルモノヨリ自分へ買受嘉永五年八月新九郎へ賣

渡シタルモノニテ自分營業中ニ於テハ水上村々へ水料等差出シタルノ之レナク繩杭ノ切形及ヒ釘等ヲ目標トシテ分水シ春彼岸ヨリ秋彼岸迄ハ休業致シ來リ該水車ヲ新九郎へ賣渡セシトハ車壹輛曰三拾八個ナリ而シテ其後同人ヨリ年々金員ヲ受取リシ原因ハ慶應元年閏五月洪水ノ節奥平野村字川向ヒニアル自分所有ノ田地へ砂押寄セ田養ノ爲メ設ケシ溝ノ埋リタルヲ新九郎方ヨリ多人數相越シ恣ニ堀立テ田地ノ妨害トナルヲ以テ故障申立タレ凡村役人ノ取嚙ヒニテ終ニ承諾シ爾來年々銀百五拾目宛明治元年ヨリハ金貳分三朱宛受取來リシ旨陳述ス

引合人岡田德兵衛於テハ南條新九郎所有ノ川池車ハ創立ノ年曆詳カナラス金増六兵衛所有ノ地方車ハ弘化元年兵庫地方有益ノ爲メ取設ケ其水源西小部谷ヨリ湊川へ流出シ石井村奥平野村ヲ經過シ

宇古川へ流シ下池ヶ鼻指上池ニ落込ニ同所ニ吸込ニノ樋ヲ設ケ其
 樋ヨリ吹出ス地方田養水ノ餘ヲ兩車へ分與シ該地ハ地方ノ民有地
 ニシテ樋堰等ハ農民高掛リヲ以テ修營シ又湊川ヨリ伏樋ヲ經テ指
 上吹出シノ下段へ吐出スル水路ハ上流減水ノ補足トナル迄ニテ兵
 庫地方百九拾餘町ノ耕地ヲ潤養スヘキ水路ニ之レナク兩水路ニ地
 方田養ノ爲メニ備ヘシモノナレハ春彼岸ヨリ秋彼岸迄ニ限ラス耕
 田必用ノ節ハ季候ヲ論セス兩車へ水ヲ得セシメス且新九郎ヨリ地
 方へ受ケシ井料銀ハ指上吹出シヨリ同人ノ水車ニ至ル水路ハ地方
 人民ノ所有地タル所以ナレハ戊辰以來之レヲ授受セズ兩車分水ノ
 目標タルニ番樋杭ノ切形及ヒ壹番樋ト唱フル水底ノ目標モ慶應元
 年ニ確定シタル由其壹番樋ハ元東西貳本アリシト傳聞シタル旨陳
 述ス

引合人岡田利兵衛於テハ慶應元年十月自分年寄役勤務中金増六兵
 衛ヨリ南條新九郎儀指上池貳番樋門ノ堰板ヲ高クシテ水車營業ノ
 妨害ヲナセシト申出ニ付同役杉山清左衛門百姓代吉左衛門仁右衛
 門並右六兵衛ト新九郎代某等立會樋杭へ切形ヲ付置キ其切形ヲ堰
 板ノ限リトホシ指上吹出シ口笠石ノ下面ヨリ高サ壹尺貳寸樋杭切
 形ノ見通ヲ新九郎ノ水車へ分與ス可ニ確定シ春彼岸ヨリ秋彼岸迄
 ハ兩車休業スレハ水多量ノ年ニハ五月ノ節迄營業致サセ來リ營業
 中ハ右目標ニ依リ新九郎へ六步六兵衛へ四步分水ナシタリ又當時
 貳番樋門ノ内手ニ壹番樋門ト唱シ東西貳本ノ樋杭之アリ今其杭ノ
 壹本現存スレハ右水底ノ目標トスル義ハ相心得サル旨陳述ス
 引合人谷勘兵衛於テハ奥平野村ニアル川上車ト稱スル自分所有ノ
 水車ハ嘉永二年二月亡父勘兵衛創立シ水源石井村井堰ヨリ流下シ

同村并奥平野村田養ノ餘水ヲ以テ營業致スニ付水引料ノ名義ニテ右兩村へ各銀六百目宛年々差出シ來ルハ其實川除堤防修繕ノ手傳ヒニシテ石井村へハ慶應二年ニ銀六貫目差出シタルハ現今出銀致サス奥平野村へノ出銀ハ近年金五圓五拾錢宛ニ改正ナシタリ而シテ南條新九郎ヨリ水引料ノ名義ニテ年々金四圓餘ヲ受取來ルハ自分方水車設立後水量相増シ隨テ水車日數共増加シタル故ナリト亡父ヨリ承リシ迄ニテ何年ヨリ授受セシヤ覺知セサレ厄新九郎ヨリ自分方へ受取タル金員ハ石井村奥平野村へ差出ス水引料ノ手傳ニシテ其金員ノ内ナ兩村へ取次キ差出ス趣意ニハ之レナク最モ新九郎方ヨリ右示談之レナキ上ハ自分方水車ニ掛ル水ハ悉ク湊川へ流下シ兵庫地方耕田ノ水路へ流出致ス旨陳述ス引合人打越孫兵衛於テハ南條新九郎ヨリ溝料ノ名義ヲ以テ年々金

壹圓五拾錢宛村方へ受取來ル趣意ハ嘉永三年ノ頃開發シタル宇山崎田畑ノ傍ヲナル指上池へ惡水落込ミ田畑ノ妨害トナレハ其レカ爲メ濕地料ヲ授受スト傳承シタル旨陳述ス

判決

第一條

原告於テ川池車用水ノ爲メ水上ナル石井奥平野夢野ノ三ヶ村へ水料差出シ來ルヲ以テ一己專用ノ特權アリト陳述スレ厄石井奥平野ノ二ヶ村へ水料差出シタルノ証左之レナク夢野村並谷勘兵衛坂倉平左衛門等ニ對シ年々多少ノ金員差出シ來リシハ指上溜池ニ至ル水路ノ幾分ニ關涉スト雖モ該水車ノ創立ハ年曆未詳ソ往昔ニシテ原告ノ營業ハ僅カ貳拾有餘年ノ近キニ在レハ爾來原告他人ト示談シ一己ノ謝義ヲ贈與セシトテ往古ヨリ流下スル水利ノ權ヲ原告ニ

得へき條理ナシトス
第二條
原告於テ先年地方へ井料銀ヲ差出タルハ指上溜池ヨリノ水路ナル
伏モ樋堤等ヲ地方ニテ修覆シ其他該地ノ地方ニ關スル故ナリト申
陳スレモ只思想ノミニテ其原因ヲ証明スルニ由ナク蓋シ水路ノ咽
喉タル指上溜池ハ地方ノ有税地ニシテ樋堤ノ修營モ地方ノ出銀ニ
係レハ地方田養ノ用水ナルコト判然タリ

第三條

被告於テ指上溜池ヨリ地方へ流下ノ樋門ニ兩車へ分水ノ目標トス
ル切形アリトノ陳述ハ原告水車ノ前營業人坂倉平左衛門地方耕田
掛リ后長岡田德兵衛舊村更岡田利兵衛等ハ口供符合シ尙實地ヲ調
査スルニ現ニ切形有之ニ付其切形ハ堰板ノ限リヲ示シタルモノニ

シテ右樋門ノ内手ニ在ル樋門ハ原告新規ニ之レヲ取設ケ水堰ナシ
タルモノト看認タリ
右ノ理由ナルヲ以テ到底初審裁決ノ通り原告ハ其樋堰ヲ取拂フヘ
キモノナリトス
明治十年九月十一日

大審院

原告

南條新九郎代人南條震三郎上告ノ要旨

第一條

大坂上等裁判所ノ判文第一條ニ爾來原告他人ト示談シ一己ノ謝義
ヲ贈與云々トアリテ抑謝義ナルモノハ贈ルモ贈ラサルモ一方ノ隨
意ニ出ツルモノナレハ夫ノ水料ノ如キ其金額ヲ定メ年々水源村々
并ニ坂倉平左衛門等へ差出シ來リタルモノトハ其性質全ク異ナル
ナリ況ンヤ地方へ差出タル井料銀ハ其井ヲ流過スル水ヲ專用スル

ノ權アルヲ証スルニ足ルヲヤ然ルヲ一己ノ謝儀ト判定セラレタルハ不當ノ裁判ト思考ス

第二條

同判文第三條ニ切形アリトノ陳述ハ原告水車ノ前營業人坂倉平左衛門地方耕田掛リ戸長岡田徳兵衛舊村吏岡田利兵衛等ノ口供符合シトアレハ被告并ニ引合人等ニ於テ被告引用ノ分水ハ十分ノ六ナリト云ヒ或ハ十分ノ四ナリト云ヒ或ハ等分ナリト云ヒ其口供符合セス然ルヲ切形アリトノ口供符合セリト云フヲ以テ判定セラレタルハ不當ノ裁判ト思考ス

第三條

同判文第三條ニ實地ヲ調査スルニ現ニ切形有之ニ付其切形ハ堰板ノ限リヲ示シタルモノトアレハ該切形ハ決シテ堰板ノ限リヲ示シ

タルモノニハ無之若シ之レヲ堰板ノ限リト爲ス作ハ原告ノ水路ハ忽チ涸渴シ一滴水モ流過セサルノミナラス水車モ亦廢棄ニ屬セリ然ルヲ實地調査ノ際堰板ノ限リト認定セラレタルハ不當ノ裁判ト思考ス

第一條

第一條

本件訴訟ノ引合人坂倉平左衛門カ明治十年六月十九日ニ大阪上等裁判所ニ於テ証言ノ口供第八條ニ新九郎方ニテ水車日等増加ナシタルニ付右埋リタル溝ヲ穿テ水ヲ引カザレハ水車運轉不相成旨ニ付其通り爲致タリ依テ銀百五十拾目宛差越明治元年ヨリ金ニ直シ貳分三朱ト致シ明治七年迄年々受取來候事又同口供第十條ニ右田地ノ溝ハ水車ノ爲メ穿テタルモノニハ無之自分平左衛門田地ノ用水